研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Negishi Y, Hamano N, Shiono H, Akiyama S, Endo-Takahashi Y, Suzuki R, Maruyama K, Aramaki Y.	The development of an ultrasound-mediated nucleic acid delivery system for treating muscular dystrophies.	Yakugaku Zasshi	132	1383-1388	2012
Matsui A, Yokoo H, Negishi Y, Endo-Takahashi Y, Chun NA, Kadouchi I, Suzuki R, Maruyama K, Aramaki Y, Semba K, Kobayashi E, Takahashi M, Murakami T.	CXCL17 expression by tumor cell recruits CD11b+Gr1 high F4/80-cells and promotes tumor progression.	PLoS One	7	e44080	2012
Negishi Y, Endo-Takahashi Y, Matsuki Y, Kato Y, Takagi N, Suzuki R, Maruyama K, Aramaki Y.	Systemic delivery systems of angiogenic gene by novel bubble liposomes containing cationic lipid and ultrasound exposure.	Mol. Pharm.	9	1834-1840	2012
Sonoda S, Tachibana K, Yamashita T, Shirasawa M, Terasaki H, Uchino E, Suzuki R, Maruyama K, Sakamoto T.	Selective gene transfer to the retina using intravitreal ultrasound irradiation.	J. Ophthalmol.	2012	412752	2012
Omata D, Negishi Y, Yamamura S, Hagiwara S, Endo-Takahashi Y, Suzuki R, Maruyama K, Nomizu M, Aramaki Y.	Involvement of Ca2+ and ATP in enhanced gene delivery by bubble liposomes and ultrasound exposure.	Mol. Pharm.	9	1017-1023	2012
Omata D, Negishi Y, Hagiwara S, Yamamura S, Endo-Takahashi Y, Suzuki R, Maruyama K, Aramaki Y.	Enhanced gene delivery using Bubble liposomes and ultrasound for folate-PEG liposomes.	J. Drug Target.	20	355-363	2012

Un K, Kawakami S, Yoshida M, Higuchi Y, Suzuki R, Maruyama K, Yamashita F, Hashida M.	Efficient suppression of murine intracellular adhesion molecule-1 using ultrasound-responsive and mannose-modified lipoplexes inhibits acute hepatic inflammation.	Hepatology	56	259-269	2012
Oda Y, Suzuki R, Otake S, Nishiie N, Hirata K, Koshima R, Nomura T, Utoguchi N, Kudo N, Tachibana K, Maruyama k.	Prophylactic immunization with Bubble liposomes and ultrasound-treated dendritic cells provided a four-fold decrease in the frequency of melanoma lung metastasis.	J. Control. Release	160	362-366	2012
Endo-Takahashi Y, Negishi Y, Kato Y, Suzuki R, Maruyama K, Aramaki Y.	Efficient siRNA delivery using novel siRNA-loaded Bubble liposomes and ultrasound.	Int. J. Pharm.	422	504-509	2012
Sugano M, Negishi Y, Endo-Takahashi Y, Suzuki R, Maruyama K, Yamamoto M, Aramaki Y.	Gene delivery system involving Bubble liposomes and ultrasound for the efficient in vivo delivery of genes into mouse tongue tissue.	Int. J. Pharm.	422	332-337	2012

—Review—

筋ジストロフィー治療に向けた超音波核酸デリバリーシステムの開発

根岸洋一,*,[a] 濱野展人,[a] 塩野　瞳,[a] 秋山早希,[a]
高橋(遠藤)葉子,[a] 鈴木　亮,[b] 丸山一雄,[b] 新槇幸彦[a]

The Development of an Ultrasound-mediated Nucleic Acid Delivery System for Treating Muscular Dystrophies

Yoichi Negishi,*,[a] Nobuhito Hamano,[a] Hitomi Shiono,[a] Saki Akiyama,[a]
Yoko Endo-Takahashi,[a] Ryo Suzuki,[b] Kazuo Maruyama,[b] and Yukihiko Aramaki[a]

[a]*Department of Drug Delivery and Molecular Biopharmaceutics, School of Pharmacy, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences; 1432–1 Horinouchi, Hachioji, Tokyo 192–0392, Japan: and* [b]*Laboratory of Drug and Gene Delivery, Faculty of Pharma Sciences, Teikyo University; 2–11–1 Kaga, Itabashi-ku, Tokyo 173–8605, Japan.*

(Received July 31, 2012)

Muscular dystrophies are a group of heterogeneous diseases that are characterized by progressive muscle weakness, wasting and degeneration. These muscular deficiencies are often caused by the loss of the protein dystrophin, a crucial element of the dystrophin-glycoprotein complex of muscle fibers. Duchenne muscular dystrophy (DMD) is a fatal, X-linked muscular disease that occurs in 1 out of every 3500 males. Therefore, feasible strategies for replacing or repairing the defective gene are required; however, to date, no effective therapeutic strategies for muscular dystrophies have been established. In this review, we first introduce gene therapies mediated by adeno-associated viruses (AAVs) including a functional dystrophin cDNA or antisense oligonucleotide (AO)-induced exon-skipping therapies, which are designed to exclude the mutated or additional exon(s) in the defective gene and thereby correct the translational reading frame. Recently, we developed "Bubble liposomes" (BLs), which are polyethylene glycol (PEG)-modified liposomes entrapping echo-contrast gas that is known as ultrasound (US) imaging gas. BL application combined with US exposure can function as a novel gene delivery tool, and we demonstrate that the US-mediated eruption of BLs is a feasible and efficient technique to deliver plasmid DNA or AOs for the treatment of muscular dystrophies.

Key words——muscular dystrophy; ultrasound; Bubble liposome; gene delivery system; exon-skipping therapy

1. はじめに

筋ジストロフィーは，筋線維の変性・壊死を主病変とし，進行性の筋力低下を伴う遺伝性疾患として知られている．筋ジストロフィーのうち，デュシェンヌ型筋ジストロフィー（Duchenne muscular dystrophy; DMD）は，発症率が最も高く，新生男児3500人に1人の割合で発症するX連鎖劣性遺伝疾患である．幼児期に発症後，筋力低下が進行し，10歳前後で歩行困難となり，車椅子生活を余儀なくされ，30歳以前に呼吸不全，又は，心不全により死に至る重篤な疾患である．現在，対症療法として，進行を遅らせる目的でステロイド療法が実施されているものの，有力な治療法は確立されていない．それゆえ新たな治療法の開発が必要とされている．そのような背景から，ウイルスベクター法あるいは，非ウイルスベクター法により，治療を目的とした遺伝子や核酸を骨格筋や心筋へと安全かつ選択的に効率よく送達導入するDMD遺伝子治療戦略が検討されている．

本総説では，筋ジストロフィーの主な遺伝子治療戦略の現状を概説する．特に最近では，核酸医薬の実用化に向けたアンチセンスオリゴヌクレオチド（antisense oligonucleotide; AO）によるエクソンスキッピング療法の臨床治験が進められている．しか

The authors declare no conflict of interest.

[a]東京薬科大学薬学部薬物送達学教室（〒192–0392 東京都八王子市堀之内1432–1），[b]帝京大学薬学部薬物送達学研究室（〒173–8605 東京都板橋区加賀2–11–1）
*e-mail: negishi@toyaku.ac.jp

本総説は，日本薬学会第132年会シンポジウムS32で発表したものを中心に記述したものである．

しながら，その治療においては，高用量の AO が頻回投与されていることから，患者の身体的負担のみならず，経済的負担の軽減のためにも投与量や投与回数の低減化が望まれている．そのような背景から，われわれは，AO の効率的導入法として，超音波エネルギーを利用した筋組織への導入システムについて研究開発を進めているので，併せて紹介する．

2. 筋ジストロフィーの発症メカニズム

DMD の病態メカニズムは，ジストロフィンタンパク質の遺伝子の変異により筋ジストロフィーが発症することが明らかとなっている．[1] 正常組織におけるジストロフィンは，骨格筋や心筋などの筋細胞膜直下に存在し，ジストログリカンやサルコグリカンなどとともにジストロフィン・糖タンパク質複合体を形成し，筋線維内の細胞骨格から筋細胞膜を介して細胞外の基底膜までを連結している（Fig. 1）．[2] ジストロフィン遺伝子に変異が生じることで，ジストロフィンタンパク質が欠損する．[3] この遺伝子変異は 50–60％が欠失，30–40％が点変異，約 10％が重複である．DMD 遺伝子に上記の変異が生じると，翻訳の過程においてコドンの読み枠のずれが生じ（out-of-frame），正常よりも前にストップコドンが出現し，そのためジストロフィンタンパク質が産生されない．結果として，筋細胞膜の強度や安定性が失われ，筋収縮の際に生じる機械的ストレスに筋細胞膜が耐えられず損傷し，筋線維の変性や壊死につながると考えられる．DMD 以外の他の筋ジストロフィー（LGMD や MD-CMD）においても，ジストロフィン以外の筋線維内の細胞骨格タンパク質（サルコグリカン及びラミニン α2 鎖）の遺伝子変異が発症原因とされている．[4]

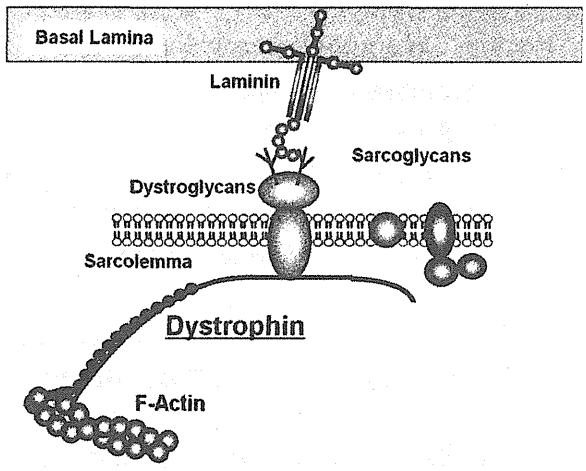


Fig. 1. Dystroglycan Complexes in the Cell Membrane

3. アデノ随伴ウイルス（AAV）ベクターによる DMD 遺伝子治療戦略

ウイルスベクター法による DMD 遺伝子治療研究では，骨格筋での長期発現を可能とするアデノ随伴ウイルス (adeno-associated virus; AAV) ベクターが用いられている．AAV は，ウイルスゲノム内へのパッケージングサイズが約 4.7 kb までと制限されているため，約 14 kb のジストロフィン遺伝子のうち，機能に関与しないロッドドメインの一部を短縮したミニジストロフィン・マイクロジストロフィンを用いた研究が進められてきた．骨格筋に親和性のある血清型や全身投与に威力を発揮する血清型が開発され，特に最近開発された AAV-8，及び AAV-9 が全身循環を介した治療用遺伝子の全身投与に有望とされ，横隔膜や心臓などを含む全身骨格筋への導入を可能としている．[5–9] 2006 年には，米国において AAV ベクターを用いたマイクロジストロフィンの遺伝子導入による臨床研究がスタートしているが，ヒトでは AAV 抗体の保有者が多いため，一度投与すると中和抗体が産生されることで，再投与は有効でないとされている．その治療効果は，一過性であり，ヒトでの有用性は，十分証明されていない．

4. AO 併用エクソンスキッピング誘導法による DMD 治療戦略

近年では，低分子核酸として，いくつもの AO がデザインされ，DNA/RNA のデオキシリボース/リボース環やリン酸塩の化学修飾を行うことで，生体内での抗分解性，水溶性，mRNA 前駆体との高い親和性を有している（Fig. 2）．それらは，次世代の DMD 治療法として，エクソンスキッピング誘導法に応用されている．[10–14]

この方法は，mRNA 前駆体から成熟 mRNA へのスプライシングの過程を制御する遺伝子配列に相補

根岸洋一

東京薬科大学薬学部薬物送達学教室准教授．博士（薬学）．1965 年東京生まれ．東京薬科大学卒業，北海道大学薬学研究科博士課程修了．㈱SRL 遺伝子解析研究センター勤務，1996 年帝京大学薬学部助手，2004 年東京薬科大学薬学部講師，2007 年より現職．2001 年米国ピッツバーグ大学にポスドク留学（Leaf Huang 教授）．超音波技術を融合した DDS・GDS の研究開発に従事．

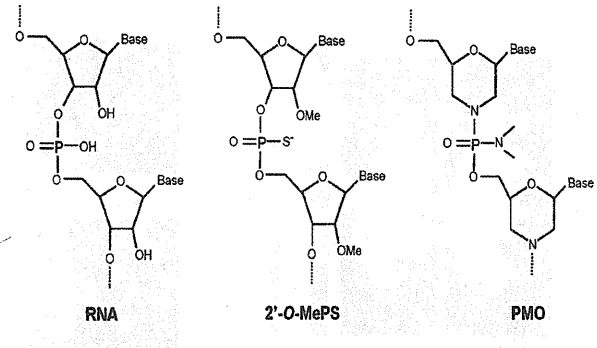


Fig. 2. Structure of RNA and Antisense Oligonucleotide
2′-*O*-methyl-modified phosphothioate (2′-*O*-MePS); Phosphorodiamidate morpholino oligomers (PMO); Bases (adenine, cytosine, guanine, and thymine).

的なAOを細胞内に導入することで，ジストロフィン遺伝子から転写されたイントロンとともに遺伝子変異のあるエクソンや隣接するエクソンをスキップする．それによって，コドンの読み枠を修正し(in-frame)，部分的に欠失があるものの，正常に近い機能を有するジストロフィンタンパク質の発現を誘導する方法である．現在，エクソンスキッピング誘導法に基づくAO治療は，DMD患者の中でも変異が多いとされているジストロフィン・エクソン51をターゲットとするAO（2′-*O*-methyl化，モルフォリノ）を用いた臨床試験（フェーズI/II）が欧米で実施されている．

5. 骨格筋への遺伝子デリバリーシステム

DMDの遺伝子治療戦略において，骨格筋組織へ外来遺伝子を効率的に導入する方法が必要不可欠である．外来遺伝子の導入法は，ウイルスベクター法と非ウイルスベクター法に大別される．ウイルスベクター法では，上述したようなAAVを利用することで，機能的なミニジストロフィン・マイクロジストロフィン遺伝子を導入する方法が進められている．一方，非ウイルスベクター法では，直接マウス骨格筋へ注入する方法により，骨格筋におけるジストロフィン発現が報告されている.[15] 現在までに筋肉注射による臨床試験も実施されたが，DMD患者におけるジストロフィン発現効率は，非常に低いため，導入法の改善の余地があると考えられる．最近では，臨床上の安全性に問題がなく，しかも安定かつ効率的な遺伝子送達を可能とするドラッグデリバリーシステム（drug delivery system; DDS）技術・方法論の研究開発が切望され，物理的エネルギー（超音波，圧力，電気など）を利用したデリバリーシステムの研究が注目されている.[16,17]

6. バブルリポソームを利用した超音波遺伝子デリバリーシステム

物理的エネルギーの中でも，特に超音波は組織ダメージが極めて低く安全性が高いことから，既に医療分野で非侵襲的な超音波診断・治療などに利用され，超音波エネルギーのDDSへの応用が期待されている．実際に超音波造影剤であるマイクロバブル（微小気泡）と導入薬物・遺伝子の共存下に治療用超音波（1–3 MHz）を照射することでバブルが崩壊し，同時にキャビテーションと呼ばれる物理現象（ミクロの気泡の生成と崩壊）を誘導し，それに伴い発生するマイクロジェット流を駆動力にした薬物・遺伝子の細胞内導入法の開発が進められつつある.[18,19] しかしながら，既存のマイクロバブルには，バブルのサイズや安全性，安定性，標的指向性の欠如などの問題点が指摘されていた．そのような背景から，これまでに血中滞留性に優れ，標的指向性を付与できるナノサイズのポリエチレングリコール修飾リポソーム（polyethylene glycol（PEG）-リポソーム）に超音波造影ガスであるパーフルオロプロパンガスを封入した新規バブル製剤の開発に着手し，超音波造影剤として，また，プラスミドDNA (plasmid DNA; pDNA）などの遺伝子キャリアーとして有用なバブルリポソームの開発に成功している (Fig. 3).[20–22]

このバブルリポソームとAOや遺伝子を筋組織内に投与後，直ちに体外から超音波照射することで，バブル崩壊に伴うキャビテーション誘導を起こし，それに伴って発生するマイクロジェット流が細胞膜に一過性の小孔を生じさせ，近傍に存在する核酸類を瞬時に細胞内へと送達導入させると考えられた（Fig. 4）．実際にバブルリポソームとレポーター遺伝子（ルシフェラーゼあるいはGFP）をコードしたpDNAとともにマウスの脛部筋組織に局所投与し，直ちに，皮膚より超音波照射（1 MHz，50% duty，2 W/cm^2，60 s）すると，pDNA単独，pDNAに超音波照射，pDNAとバブルリポソーム混合液を添加した群では，ほとんど遺伝子発現に顕著な差が認められなかったのに対し，pDNAとバブルリポソームを混合し，さらに超音波照射した群では，顕著な遺伝子発現の増強が観察された．GFPを

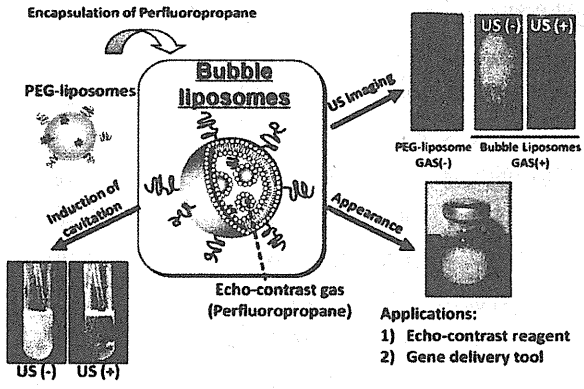


Fig. 3. Bubble Liposomes

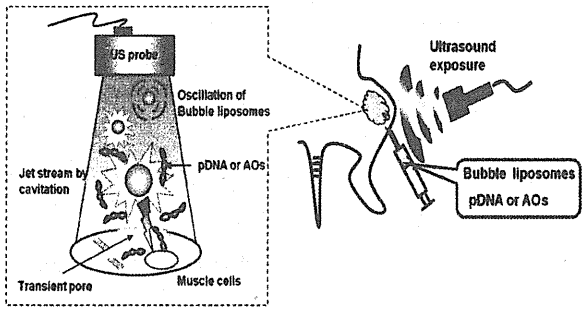


Fig. 4. *In Vivo* Gene Delivery System into Muscle by Bubble Liposomes and Ultrasound

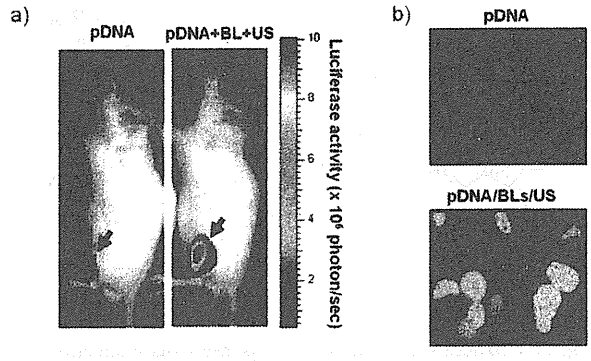


Fig. 5. Reporter Gene Expression in Muscle Transfected with Bubble Liposomes and Ultrasound

Mice were treated with Bubble liposomes and ultrasound-mediated intramuscular Luciferase (a) or EGFP (b) gene transfer. After 5 days transfection, the transfected muscle was analyzed by IVIS imaging system (Xenogen, CA, USA) or sectioned and analyzed by fluorescent microscopy. pDNA (pCMV-Luc or pEGFP-N3): 10 μg, Bubble liposomes: 30 μg, ultrasound exposure: (Frequency: 1 MHz, Duty: 50%, Intensity: 2 W/cm^2, Time: 60 s) (Modified from *Pharm. Res.* 2011).

コードした pDNA 導入による組織学的な解析から，超音波照射部位にのみ限局した発現も観察された（Fig. 5）.[23] その発現は，少なくとも 4 週間は持続していた．さらに GFP 遺伝子を発現させたマウス脛部筋組織へ，バブルリポソームと超音波照射による siRNA（siGFP）の導入を行い，その組織切片を蛍光顕微鏡により観察したところ，siGFP 導入群の超音波照射部位において，特異的な GFP 発現抑制効果が認められた.[21,24] 本導入条件においては，組織障害性がほとんど認められなかったことから，バブルリポソームと超音波照射の併用法は，筋組織への pDNA や低分子核酸である siRNA の導入法において，有用な手法であることが示された.[21,24]

7. バブルリポソームを利用した超音波 AO デリバリーシステム

DMD 治療の基礎的研究で，古くからよく用いられている *mdx* マウスは，最近では，エクソンスキッピング誘導法の開発に利用されている．このマウスは，ジストロフィン遺伝子のエクソン 23 にナンセンス変異（CAA：グルタミン酸→TAA：ストップコドン）を有することから，ジストロフィンタンパク質の翻訳が途中で阻害され，全身の筋肉でジストロフィンが欠損している.[25] *mdx* マウスを利用するエクソンスキッピング誘導法では，エクソン 23 とイントロン 23 の境界部に相補的配列の AO（2′-*O*-methyl 化，PMO など）を投与することで，エクソン 23 のスキッピングを誘導し，その結果，スキップしたエクソン 23 に相当する部分は欠如しているものの，正常に近い機能を有するジストロフィンの産生が可能となることが報告されている（Fig. 6）.[14]

エクソンスキッピング誘導法に利用される AO の中でも，特にモルフォリノ（phosphorodiamidate morpholino oligomer; PMO）は，DNA/RNA のデオキシリボース/リボース環に代わりモルフォリン環，リン酸塩の代わりにホスホロジアミデートを持ち，生体内での抗分解性，水溶性，mRNA 前駆体との高い親和性を有する AO である利点を持っている．しかし，十分な治療効果を得るためには高い有効濃度を必要とし，大量投与や繰返し投与が不可欠とされている．DMD 患者では，全身の骨格筋や心筋においてジストロフィン発現の回復が必要であり，治療は長期に渡ることとなる．そこでエクソンスキッピング誘導法を汎用性の高い治療法とするには，より少ない投与量，投与回数で治療効果を得ることができる安全かつ効率的な AO の細胞内送達システムの開発が，極めて重要である．これが DMD

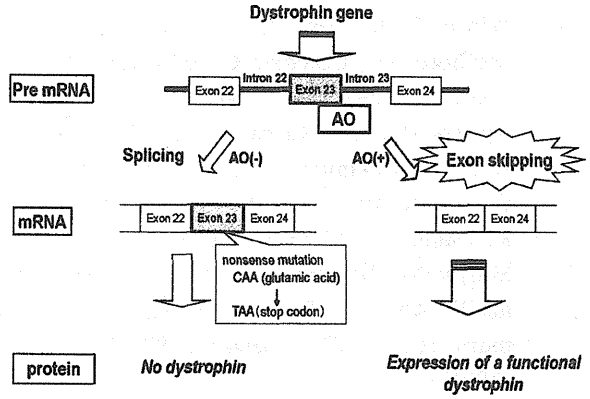


Fig. 6. Exon-skipping Therapy with Antisense Oligonucleotide (AO) in *Mdx* Mouse

The *mdx* mouse carries a nonsense point mutation in exon 23 of the dystrophin gene and lacks dystrophin expression in all muscles. Specifically designed antisense oligonucleotides are able to skip exon 23 in *mdx* mice and produce a partly functional dystrophin protein.

患者のQOLの向上につながるものと期待される．これまでにわれわれは，バブルリポソームと超音波照射を用いた低侵襲的な導入法の開発を進め，遺伝子（pDNA）及び低分子核酸（siRNA）の導入ツールとして有用であることを明らかとしてきた．[20-22] さらに本法を利用した骨格筋への遺伝子導入法を確立している．[21,24] そこでバブルリポソームと超音波照射を併用した導入法により，DMDモデル動物（*mdx*マウス）へのPMOの導入効率を改善できるか否かについて検討した．

*mdx*マウスの骨格筋に対し，バブルリポソームと超音波照射併用によるPMO導入を行い，エクソンスキッピング誘導を試みた結果，PMO単独投与群と比較し，バブルリポソームと超音波照射併用によりPMO導入した群では，mRNAレベルにおいてエクソンスキッピングの誘導効率が有意に上昇した．また，ジストロフィンタンパク質の発現においてもPMO単独投与群と比較し，バブルリポソームと超音波照射併用によりPMO導入した群では，広範囲かつ均一なジストロフィンの発現が観察され，ジストロフィン陽性筋線維数が顕著に増加し，少ない投与量で効果が得られることが示された．

以上の結果から，PMOをバブルリポソームと超音波照射併用により導入することで，PMO送達エリアが拡大し，より多くの筋線維にPMOを行渡らせることができるようになること，また，PMOがスプライシングの過程を制御するためには，核内に導入される必要があるが，バブルリポソームと超音波照射を併用することで，組織透過性が上昇し，それが筋線維の核内へ高効率にPMOが導入されるものと推察される．すなわち，バブルリポソームと超音波照射を併用することで，少ない投与量で最大限のPMOの効果が期待できる．さらに，エバンスブルーの投与による，筋細胞膜の強度の評価の結果から，バブルリポソームと超音波照射併用PMO導入によって発現増強したジストロフィンが，筋収縮の際に生じる機械的なストレスによる損傷から筋線維を保護できることを示し，本導入法によって増強したジストロフィンの発現回復が生理学的にも機能していることが明らかとなった．長期間の観察から，導入2ヵ月後においても，バブルリポソームと超音波照併用によりPMO導入を行うことで，高いジストロフィン発現の持続が認められた．

これらの結果から，バブルリポソームと超音波照射併用による効率的なPMO導入によって，ジストロフィンの発現自体の増加とそれに伴う筋細胞膜強度が増加し，単回投与であっても機能的なジストロフィンの発現が可能となることも示された．

以上，局所筋組織へのバブルリポソームと超音波照射を併用したPMO導入の結果から，本法がDMD治療における有望なAOの細胞内送達ツールとなり得ることを明らかとした．

8. おわりに

DMD治療において，AOによるエクソンスキッピング誘導法により，ジストロフィン遺伝子を発現させる方法は，有用と考えられる．しかし，AOの効果は一過性であり，ジストロフィンの発現を維持するには繰り返し投与が必要である．さらに高用量のAOが長期に渡って投与される場合，安全性を十分に考慮しなければならない．また，心筋に取り込まれる効率が低いこと，患者によって用いるAOの配列が異なること，治療費が高額になることが懸念される．今回紹介したバブルリポソームと超音波照射を併用した筋組織へのAO導入法は，これまでのエクソンスキッピング誘導法の安全性と効果を格段に高め得ると期待される．

今後は，DMD治療における核酸医薬の実用化に向け，バブルリポソームと超音波照射併用による全身の骨格筋や心筋への安全かつ効率的な導入法の開発を行い，臨床応用可能な導入システムの構築を進

める予定である.

謝辞 本稿で紹介した研究成果は，主に東京薬科大学薬学部薬物送達学教室と帝京大学薬学部生物薬剤学教室・丸山一雄先生，鈴木 亮先生との共同研究の一環として行われたものである．研究遂行にご協力頂いた当教室の学生諸子（特に関根祥子修士，松尾慶子修士，西島信明修士，石井優子修士，小島卓雄学士）に深謝する．また，超音波照射に関する技術的なご指導を頂いた福岡大学医学部解剖学教室・立花克郎先生，ネッパジーン㈱・早川靖彦氏，鈴木孝尚氏に深謝する．さらに，本研究は独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）（Industrial Technology Research Grant Program（04A05010）），文科省科研費：萌芽研究（18650146），基盤研究（B）（23300193）の研究助成により遂行されたものであり，ここに深甚なる誠意を表します.

REFERENCES

1) Hoffman E. P., Brown R. H., Kunkel L. M., *Cell*, **51**, 919–928 (1987).
2) Campbell K. P., *Cell*, **80**, 675–679 (1995).
3) Aartsma-Rus A., Van Deutekom J. C., Fokkema I. F., Van Ommen G. J., Den Dunnen J. T., *Muscle Nerve*, **34**, 135–144 (2006).
4) Collons J., Bönnemann C. G., *Curr. Neurol. Neurosci. Rep.*, **10**, 83–91 (2010).
5) Nishiyama A., Ampong B. N., Ohshima S., Shin J. H., Nakai H., Imamura M., Miyagoe-Suzuki Y., Okada T., Takeda S., *Hum. Gene Ther.*, **19**, 719–730 (2008).
6) Wang Z., Zhu T., Qiao C., Zhou L., Wang B., Zhang J., Chen C., Li J., Xiao X., *Nat. Biotechnol.*, **23**, 321–328 (2005).
7) Inagaki K., Fuess S., Storm T. A., Gibson G. A., McTiernan C. F., Kay M. A., Nakai H., *Mol. Ther.*, **14**, 45–53 (2006).
8) Bish L. T., Morine K., Sleeper M. M., Sanmiguel J., Wu D., Gao G., Wilson J. M., Sweeney H. L., *Hum. Gene Ther.*, **19**, 1359–1368 (2008).
9) Pacak C. A., Mah C. S., Thattaliyath B. D., Conlon T. J., Lewis M. A., Cloutier D. E., Zolotukhin I., Tarantal A. F., Byrne B. J., *Circ. Res.*, **99**, e3–e9 (2006).
10) Wilton S. D., Fall A. M., Harding P. L., McClorey G., Coleman C., Fletcher S., *Mol. Ther.*, **15**, 1288–1296 (2007).
11) Aartsma-Rus A., Bremmer-Bout M., Janson A. A., den Dunnen J. T., van Ommen G. J., van Deutekom J. C., *Neuromuscul. Disord.*, **12** (Suppl. 1), S71–S77 (2002).
12) Matsuo M., Masumura T., Nishio H., Nakajima T., Kitoh Y., Takumi T., Koga J., Nakamura H., *J. Clin. Invest.*, **87**, 2127–2131 (1991).
13) Muntoni F., Torelli S., Ferlini A., *Lancet Neurol.*, **2**, 731–740 (2003).
14) Dunckley M. G., Manoharan M., Villiet P., Eperon I. C., Dickson G., *Hum. Mol. Genet.*, **7**, 1083–1090 (1998).
15) Wolff J. A., Malone R. W., Williams P., Chong W., Acsadi G., Jani A., Felgner P. L., *Science*, **247**, 1465–1468 (1990).
16) Nishikawa M., Huang L., *Hum. Gene Ther.*, **12**, 861–870 (2001).
17) Niidome N., Huang L., *Gene Ther.*, **9**, 1647–1652 (2002).
18) Tachibana K., Tachibana S., *Jpn. J. Appl. Phys.*, **38**, 3014–3019 (1999)
19) Mitragotri S., *Nat. Rev. Drug Discov.*, **4**, 255–259 (2005).
20) Suzuki R., Takizawa T., Negishi Y., Hagisawa K., Tanaka K., Sawamura K., Utoguchi N., Nishioka T., Maruyama K., *J. Control. Release*, **117**, 130–136 (2007).
21) Negishi Y., Endo Y., Fukuyama T., Suzuki R., Takizawa T., Omata D., Maruyama K., Aramaki Y., *J. Control. Release*, **132**, 124–130 (2008).
22) Suzuki R., Takizawa T., Negishi Y., Utoguchi N., Sawamura K., Tanaka K., Namai E., Oda Y., Matsumura Y., Maruyama K., *J. Control. Release*, **125**, 137–144 (2008).
23) Negishi Y., Matsuo K., Endo-Takahashi Y., Suzuki K., Matsuki Y., Takagi N., Suzuki R., Maruyama K., Aramaki Y., *Pharm. Res.*, **28**, 712–719 (2011).
24) Negishi Y., Endo-Takahashi Y., Suzuki R., Maruyama K., Aramaki Y., *J. Drug Del. Sci. Tech.*, **22**, 91–97 (2012).
25) Scinski P., Geng Y., Ryder-Cook A. S., Barnard E. A., Darlison M. G., Barnard P. J., *Science*, **244**, 1578–1580 (1989).

OPEN ACCESS Freely available online

PLOS | ONE

CXCL17 Expression by Tumor Cells Recruits $CD11b^{+}Gr1^{high}F4/80^{-}$ Cells and Promotes Tumor Progression

Aya Matsui[1,2], Hideaki Yokoo[3], Yoichi Negishi[4], Yoko Endo-Takahashi[4], Nicole A. L. Chun[2], Ichiro Kadouchi[2], Ryo Suzuki[5], Kazuo Maruyama[5], Yukihiko Aramaki[5], Kentaro Semba[6], Eiji Kobayashi[7], Masafumi Takahashi[2], Takashi Murakami[1]*

1 Laboratory of Tumor Biology, Takasaki University of Health and Welfare, Takasaki, Gunma, Japan, 2 Division of Bioimaging Sciences, Center for Molecular Medicine, Jichi Medical University, Shimotsuke, Tochigi, Japan, 3 Department of Human Pathology, Gunma University Graduate School of Medicine, Maebashi, Gunma, Japan, 4 Department of Drug and Gene Delivery Systems, School of Pharmacy, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences, Tokyo, Japan, 5 Department of Biopharmaceutics, School of Pharmaceutical Sciences, Teikyo University, Sagamihara, Kanagawa, Japan, 6 Department of Life Science and Medical Bio-Science, Waseda University, Wakamatsu, Shinjuku, Tokyo, Japan, 7 Division of Development for Advanced Medical Technology, Jichi Medical University, Shimotsuke, Tochigi, Japan

Abstract

Background: Chemokines are involved in multiple aspects of pathogenesis and cellular trafficking in tumorigenesis. In this study, we report that the latest member of the C-X-C-type chemokines, CXCL17 (DMC/VCC-1), recruits immature myeloid-derived cells and enhances early tumor progression.

Methodology/Principal Findings: CXCL17 was preferentially expressed in some aggressive types of gastrointestinal, breast, and lung cancer cells. CXCL17 expression did not impart NIH3T3 cells with oncogenic potential *in vitro*, but CXCL17-expressing NIH3T3 cells could form vasculature-rich tumors in immunodeficient mice. Our data showed that CXCL17-expressing tumor cells increased immature $CD11b^{+}Gr1^{+}$ myeloid-derived cells at tumor sites in mice and promoted $CD31^{+}$ tumor angiogenesis. Extensive chemotactic assays proved that CXCL17-responding cells were $CD11b^{+}Gr1^{high}F4/80^{-}$ cells (~90%) with a neutrophil-like morphology *in vitro*. Although CXCL17 expression could not increase the number of $CD11b^{+}Gr1^{+}$ cells in tumor-burdened SCID mice or promote metastases of low metastatic colon cancer cells, the existence of CXCL17-responding myeloid-derived cells caused a striking enhancement of xenograft tumor formation.

Conclusions/Significance: These results suggest that aberrant expression of CXCL17 in tumor cells recruits immature myeloid-derived cells and promotes tumor progression through angiogenesis.

Citation: Matsui A, Yokoo H, Negishi Y, Endo-Takahashi Y, Chun NAL, et al. (2012) CXCL17 Expression by Tumor Cells Recruits $CD11b^{+}Gr1^{high}F4/80^{-}$ Cells and Promotes Tumor Progression. PLoS ONE 7(8): e44080. doi:10.1371/journal.pone.0044080

Editor: Soumitro Pal, Children's Hospital Boston & Harvard Medical School, United States of America

Received November 25, 2011; **Accepted** July 31, 2012; **Published** August 29, 2012

Funding: This study was supported by a grant to T.M. from the Health and Labour Science Research Grants of the Ministry of Health, Labor, and Welfare (Research on Biological Resources), the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) of Japan (Project No. 20591326, 2008–2010 and Project No. 23591627, 2011), Takeda Science Foundation (2010), and a grant from the "Strategic Research Platform" for Private Universities: matching fund subsidy from MEXT. The funders had no role in study design, data collection and analysis, decision to publish, or preparation of the manuscript.

Competing Interests: The authors have declared that no competing interests exist.

* E-mail: murakami@takasaki-u.ac.jp

Introduction

The tumor microenvironment is the result of an extremely complex series of biological events that depend on tumor cell interaction with the responding host cells [1]. Although the exact components of the tumor microenvironment are heterogeneous in different tumor types and differ according to the stages of tumor progression, the process known as angiogenesis, or the generation of new blood vessels from pre-existing vasculature, is a prominent feature of successful tumor growth in the majority of solid tumors [2,3]. In fact, a variety of factors produced by both tumor cells and host responding cells have been discovered that regulate angiogenesis [1–4], and data emerging from current studies demonstrate that tumor-associated macrophages (TAMs) [1,4], mesenchymal stem cells (MSCs) [5], and myeloid-derived suppressor cells (MDSCs) [4–6] are accumulated at tumor sites and play a pivotal role in tumor angiogenesis, as well as tumor progression and metastasis.

Chemokines are involved in the growth and progression of many tumor types, although they were previously regarded mainly as indispensable chemotactic cytokines for immunity and inflammation [1,7]. For example, the directional migration of A2056 human melanoma cells was shown by exposure of the C-X-C-type chemokine ligand (CXCL) 8 [8], and both CXCL8 and CXCL5 expression in non-small cell lung carcinoma (NSCLC) has been correlated with tumor angiogenesis [9]. Human CXCL17 (also referred to as dendritic and monocyte chemokine-like protein [DMC] or VEGF correlated chemokine 1 [VCC-1]) has been identified as the latest member of the C-X-C chemokine family following fine structure-based protein analysis and cDNA micro-

array analysis [10,11]. Although it was demonstrated that the new C-X-C chemokine induces migration of $CD14^+$ monocytes and $CD11c^+$ immature dendritic cells (DCs) from human peripheral blood [10] and contributes to potential angiogenesis [11], the role of the chemokine in tumorigenesis remains unclear. Herein, we demonstrate that CXCL17 recruits $CD11b^+Gr1^+$ myeloid-derived cells at tumor sites and promotes angiogenesis and tumorigenesis. Moreover, some human tumor cells expressed CXCL17, and a xenograft tumor model using SCID mice showed rapid tumor formation with rich microvasculature. Therefore, we propose that the aberrant expression of CXCL17 in tumor cells may play a pivotal role in tumor progression.

Results

CXCL17 Promotes Tumor Formation without Oncogenic Transformation

A previously published study revealed that human CXCL17-expressing NIH3T3 (hCXCL17-3T3) cells formed tumors in athymic nude mice [11]. This led to the hypothesis that CXCL17 overexpression may provide oncogenic potential to NIH3T3 cells. In order to investigate this hypothesis, we generated mouse CXCL17-3T3 cells by retroviral transduction. RT-PCR analysis showed a CXCL17-specific PCR product (384 bp) in a transfection-dependent manner (Figure 1A). Immunostaining probed by anti-mCXCL17 Ab also showed the protein expression in the cytoplasm of mCXCL17-3T3 cells (Figure 1B). In an effort to determine whether mCXCL17-3T3 cells had acquired the anchorage-independent growth property, a colony formation assay in soft agar was performed [12]. As shown in Figure 1C, no colony was generated in mouse CXCL17-3T3 cells, whereas $H\text{-}Ras^{G12V}$-transformants gave rise to numerous and large colonies. The level of proliferation of mCXCL17-3T3 cells was not altered relative to that of LacZ-expressing NIH3T3 (LacZ-3T3) cells under regular adherent culture conditions (data not shown). However, subcutaneous injection of mCXCL17-3T3 cells into nude mice showed more rapid tumor formation than that produced by LacZ-3T3 cells (Figure 1D). The high-power view of the allograft of $H\text{-}Ras^{G12V}$-transformed tumor cells showed plump nuclei with abundant mitotic figures, whereas the histology of mCXCL17-3T3 and LacZ-3T3-transfected cells was similar, characterized by a spindle-shaped morphology and less proliferative activity (Figure S1). Moreover, blood flow monitoring by Doppler-based ultrasound real-time qualitative imaging demonstrated abundant signals (orange) in mCXCL17-3T3-derived tumor at an equivalent volume (75 mm^3, 25% in mCXCL17-3T3 versus 15% in LacZ-3T3; Figure 1E). Immunostaining of mCXCL17-3T3-derived tumor using anti-CD31 Ab also revealed increased formation of vasculature (Figure 1F). These results indicate that CXCL17 does not have oncogenic transformation activity with NIH3T3 cells *in vitro*, but suggest that CXCL17 introduces tumorigenicity through angiogenesis *in vivo*.

Implication of CXCL17 Expression with Human Cancer

In order to determine whether human cancer cells express CXCL17, an RT-PCR assay was performed using 54 human cancer cell lines (colorectal, gastric, renal, breast, non-small cell lung, pancreatic carcinoma, and melanoma) (Figure 2A and 2B, and Figure S2 and S3A). CXCL17 was expressed most frequently in colon and breast carcinoma cell lines, some gastric cell lines, and non-small cell lung cancer and pancreatic carcinoma cell lines, but not in melanoma cell lines. The data from the 54-cell line panel was consistent with the available data measuring CXCL17 expression across nearly 1,000 human cancer cell lines examined by the Cancer Cell Line Encyclopedia project (http://www.broadinstitute.org/ccle/home). Moreover, preliminary immunohistochemical analyses showed that CXCL17 was positive in some clinical specimens (50% in colorectal cancer, 60% in breast cancer, and 30% in non-small cell lung carcinoma) (Figure 2C and 2D, and Figure S3B). Thus, further follow-up data using immunohistochemistry would be helpful in evaluating the protein levels of CXCL17.

We further investigated whether CXCL17 expression could induce rapid tumor growth of CXCL17-negative DLD-1 colon cancer cells in SCID mice. Mouse CXCL17-expressing DLD-1 (CXCL17-DLD-1) cells were generated and injected into the subcutaneous space of SCID mice (Figure 3A). Strikingly, CXCL17-DLD-1 cells formed tumors more rapidly than control LacZ-DLD-1 cells. There was no difference in cell proliferation among CXCL17-DLD-1, lacZ-DLD-1, and parental cells (data not shown). Similar results were obtained from CXCL17-SW620 cells (Figure S4A). Moreover, the CD31-positive microvasculature increased in CXCL17-DLD-1 tumors (2-fold in number) compared with LacZ-DLD-1 cells (Figure 3B and 3C). Doppler-based ultrasound imaging analysis showed increased blood flow in an early tumorigenic stage in CXCL17-SW620 cells (around 10–15 days; Figure S4B). Stronger blood flow signals were observed in CXCL17-expressing tumors at the equivalent volume (75 mm^3) (Figure S4C). These results suggest that overexpression of CXCL17 promotes tumor formation *in vivo* through an increase in tumor vessels.

Whether CXCL17 expression affects the metastatic potential of tumor cells is of immense interest in tumor biology. While representative CXCL17-positive colon cancer cells such as HT-29, KM12, and Colon-205 cells showed hematogenous distant metastases with respect to their own properties (see Materials and Methods S1 and Figure S5A), CXCL17-negative DLD-1, SW620, and HCT-15 cells did not show any distant metastases (Figure S5A and S5B). We then addressed whether CXCL17-expressing DLD-1 cells could promote distant organ metastases. The cells were injected into the portal vein of SCID mice (Figure S5C), but metastatic tumor formation was not observed in the liver of mice. Similar results were obtained using CXCL17-expressing SW620 cells (data not shown). Furthermore, in an effort to clarify the role of CXCL17 in regard to tumorigenic potential, we also performed CXCL17-knockdown experiments using HT-29 cells (Figure 4). Our findings showed that CXCL17-knockdown could not significantly impair the aggressive tumorigenic phenotype and angiogenesis. Thus, these results suggest that exogenous CXCL17 expression is unable to alter the less metastatic phenotype of tumor cells to the aggressive phenotype.

CXCL17 Recruited Immature Myeloid-derived Cells at Tumor Sites

In an effort to examine tumor angiogenesis through CXCL17, we observed cell infiltrates at the edge of CXCL17-DLD-1-transplanted tumors. Those cells were greatly stained by CD11b and Gr-1 mAb (Figure 5A), and some were CD11b and Gr-1 double-positive. In comparison with the LacZ-DLD-1 tumor, $CD11b^+Gr\text{-}1^+$ cells had increased in number at tumor sites (2-fold, Figure 5B).

Since it is well known that tumor-bearing conditions significantly increased the population number of $CD11b^+Gr\text{-}1^+$ myeloid-derived cells in the spleen of immune-competent mice [6], we further examined whether CXCL17 expression could increase the population number of $CD11b^+Gr\text{-}1^+$ myeloid-derived cells. CXCL17- or LacZ-expressing murine Colon26 cancer cells [13] were transplanted into the subcutaneous space of syngeneic

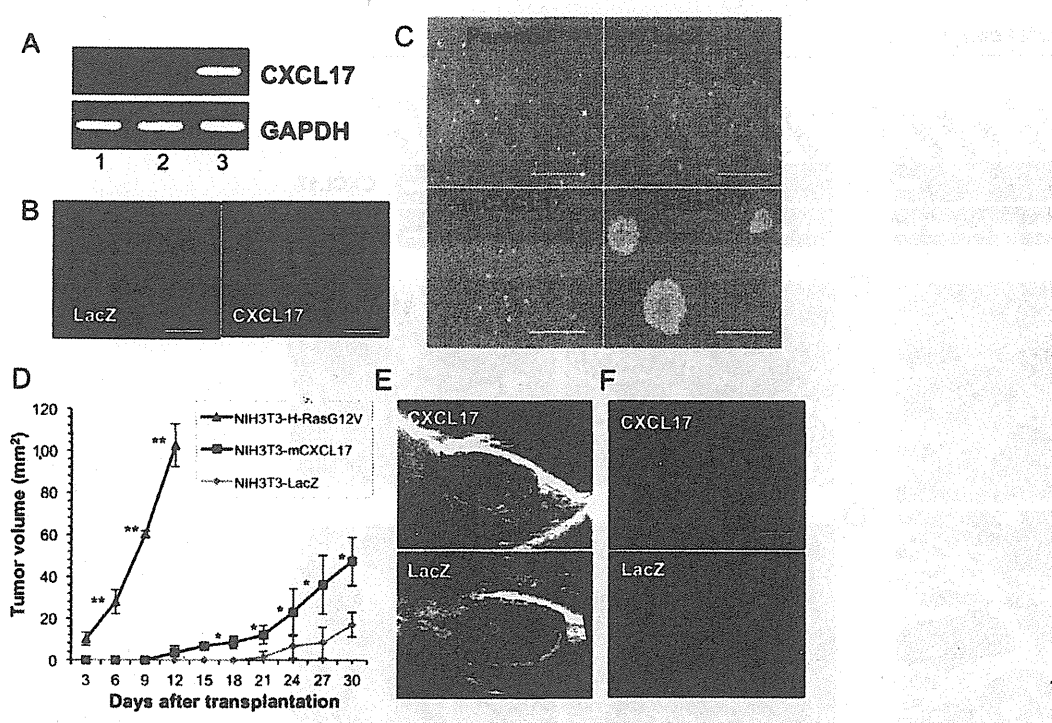


Figure 1. Tumorigenic potential of mouse CXCL17-expressing NIH3T3 cells. (A) Analysis of transduced mCXCL17 mRNA expression in NIH3T3 cells using RT-PCR. Upper panel, CXCL17; lower panel, GAPDH as an internal control. Lane 1, parental cells; lane 2, LacZ-transfected cells; lane 3, mCXCL17-transfected cells. (B) Immunostaining of CXCL17-expressing NIH3T3 cells probed with anti-mCXCL17 Ab. Left, LacZ-transfected cells; right, mCXCL17-transfected cells. Scale bar: 20 um. (C) Anchorage-independent growth assay. Representative phase-contrast microscopic images are shown. Scale bar: 100 um. (D) Transfected NIH3T3 cells (1×10^6) were transplanted into the subcutaneous space of CHO nude mice and tumor size was measured at the indicated time points. *, $P=0.0154$ (mCXCL17 versus LacZ); **, $P<0.0001$ (mCXCL17 versus H-Ras^{V12}); One of two independent experiments with similar results ($n=3-4$ per group). (E) Representative Doppler-based ultrasound real-time imaging of differential tumor blood flow. Upper, CXCL17 transfection; lower, LacZ transfection. (F) Immunostaining of tumor from NIH3T3 cells probed with anti-CD31 Ab. Upper, CXCL17-transfected cells; lower, LacZ-transfected cells. Scale bar: 100 um.
doi:10.1371/journal.pone.0044080.g001

BALB/c mice. CXCL17- and LacZ-Colon26 cells formed tumors, although there was no difference in tumor size (data not shown). In comparison with naïve tumor-free mice, the population of CD11b$^+$Gr-1$^+$ cells could increase in the tumor-bearing mice, although the populations of CXCL17- and LacZ-Colon26 tumors were not segregated (Figure 5C). Thus, these results suggest that CXCL17 expression in tumor cells may recruit CD11b$^+$Gr-1$^+$ myeloid-derived cells at tumor sites, but not increase the population size of CD11b$^+$Gr-1$^+$ cells.

We then set out to identify the type of murine cells that could respond preferentially to CXCL17 *in vitro*. Spleen cells were isolated from naïve SCID mice since CD11b$^+$Gr-1$^+$ myeloid-derived cells were greatly increased in the mice (Figure S6A). A chemotaxis assay was then performed using recombinant CXCL17. As shown in Figure 6A (left panel), some spleen cells definitely responded to recombinant mCXCL17 in a dose-dependent manner. Cell migration was blocked by heat-inactivation of the recombinant protein and treatment with pertussis toxin (PTX) (Figure 6A, right panel). The majority of CXCL17-responding cells showed a neutrophil-like morphology (Figure 6B). Similar increases in CXCL17-responding cells were also observed in tumor-bearing BALB/c mice in which CD11b$^+$Gr-1$^+$ accumulated greatly by the transplantation of unmanipulated Colon26 cells (Figure S6B).

Furthermore, in an effort to identify CXCL17-responding cells, FACS analysis was performed using migrated cells by recombinant mCXCL17. Responding cells were predominantly CD11b-positive and Gr-1-positive (93%), but F4/80-negative (Figure 6C and 6D). Similar results were obtained with recombinant human CXCL17 (Figure S7A) and F4/80-positive cells that remained in the upper chamber of the chemotaxis assay (Figure S7B). We further examined whether these cells might be segregated with monocytic myeloid cells in the spleen of mice. Recombinant mouse CCL2 (MCP1) was used as a representative CCR2 ligand, which plays a pivotal role in the recruitment of monocytes at tumor sites [14–16]. CCL2-responding cells showed CD11b^{high}Gr-1$^+$ monocyte-like phenotypes, compared with CXCL17-responding cells (Figure S7C). Thus, these results suggest that CD11b$^+$Gr-1^{high}F4/80$^-$ myeloid-derived cells (neutrophil-like) are sensitive to CXCL17.

CXCL17-responding Myeloid-derived Cells Promote Tumor Formation and Angiogenesis

We further addressed whether CXCL17-responding myeloid-derived cells could promote tumorigenesis of CXCL17-expressing tumor cells. Migrated myeloid-derived cells in the CXCL17-dependent manner were collected from the lower chamber of the chemotaxis assay (4-hr exposure), and these cells together with CXCL17-expressing SW620 cells were injected subcutaneously into SCID mice (Figure 7A). In comparison with the use of CXCL17-unresponding cells (from the upper chamber of the chemotaxis assay), CXCL17-recruited cells caused a striking

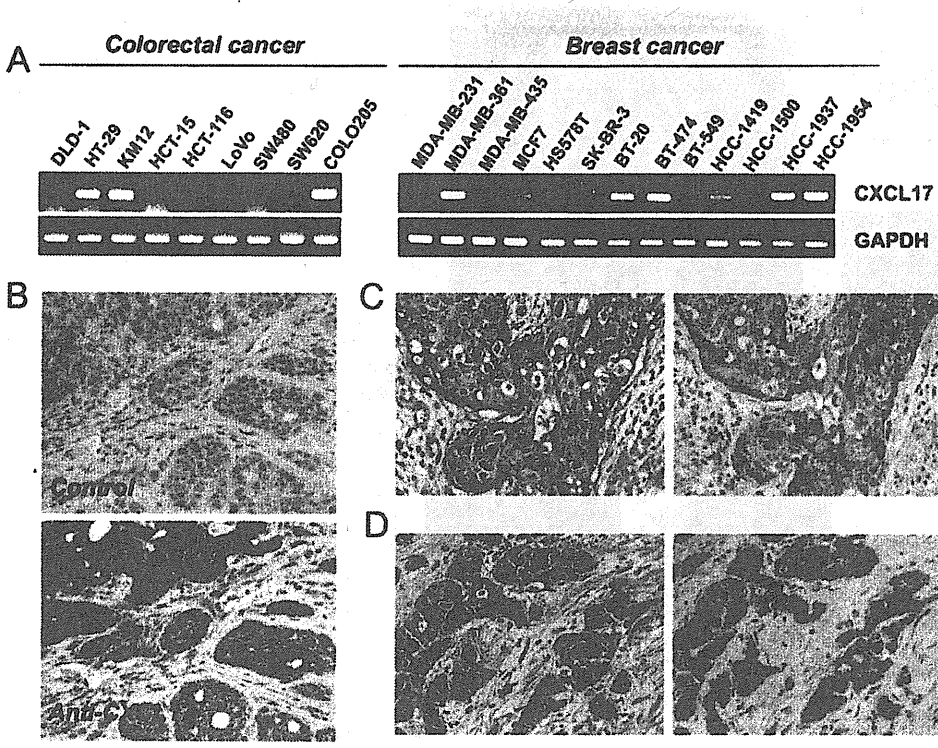


Figure 2. CXCL17 mRNA expression in various human cell lines. (A) Analysis of human CXCL17 mRNA expression in human colon and breast cancer cell lines using RT-PCR. Upper panel, CXCL17; lower panel, GAPDH as an internal control. Cell line names are indicated on each panel. (B) Immunohistochemistry for CXCL17 in the representative xenograft of HT-29 cells, using normal rabbit IgG (upper panel, control) and anti-human CXCL17 IgG (lower panel). Magnification is × 100. The brown color (3,3′-diaminobenzidine) indicates positive staining. Surgically resected colon (C) and breast (D) cancers were probed with anti-human CXCL17 antibodies. Representative images are shown (see *Materials and Methods*). Magnification is × 100. Upper panel, H&E staining; lower panel, anti-human CXCL17 IgG.
doi:10.1371/journal.pone.0044080.g002

enhancement in tumor formation of CXCL17-SW620 cells. Interestingly, CXCL17-responding cells could also moderately promote tumor formation of the control LacZ-SW620 cells. Moreover, $CD31^+$ vasculatures in the CXCL17-SW620 tumor also increased in number in the presence of CXCL17-responding myeloid-derived cells (Figure 7B). Thus, these results demonstrate that CXCL17-responding myeloid-derived cells promote tumor growth in conjunction with angiogenesis. Regarding CXCL17-mediated angiogenesis, CXCL17 increased the levels of VEGF-A in vascular endothelial cells [11]. While VEGF-A expression and cell migration was observed in vascular endothelial cells (Figure S8), VEGF-A was not induced in the immediately migrated myeloid-derived cells by CXCL17 (data not shown). These results suggest that CXCL17-recruited myeloid-derived cells may need to be modified for angiogenic potential in the tumor microenvironment.

Discussion

Herein, we have demonstrated the potential role of chemokine CXCL17 in tumor formation. The remarkable features presented in this study include: 1) CXCL17-producing cells increased angiogenesis *in vivo* and formed tumors, 2) some of the human cancer cells expressed CXCL17, 3) they recruited immature $CD11b^+Gr\text{-}1^+F4/80^-$ myeloid-derived cells, and 4) the recruited myeloid-derived cells by CXCL17 could promote tumor growth *in vivo*.

While CXCL17 was identified as a potential chemokine to human immature DCs and monocytes [10], it has been shown to act as a tumor-forming factor [11]. In the latter case, since it is well known that NIH3T3 cells are vulnerable to cell transformation [12,17,18], our first question focused on whether CXCL17 plays a role as a potential oncogene or whether the unidentified receptor on NIH3T3 cells might be activated in an autocrine manner. Constitutive stimulation from G-protein coupled receptors (GPCRs) (e.g., KSHV vGPCR) could link cell transformation and proliferation, and tumorigenicity [19,20]. To address the above question, a colony formation assay was performed in soft agar, and transformed or constitutively activated 3T3 cells should have formed colonies in an anchorage-independent fashion. However, CXCL17-expressing 3T3 cells did not form any colonies (Figure 1C) or transformation foci (data not shown), and those cells could only form tumors in nude mice (Figure 1D). These results demonstrate that CXCL17 has less oncogenic activity, and perhaps suggest that NIH3T3 cells do not express the CXCL17 receptor.

We could successfully monitor tumor angiogenesis using Doppler-based high-resolution ultrasonography (Figure 1E) without killing the experimental mice. The analyzed imaging data correlated well with the CD31-positivity in specimens of CXCL17-expressing tumors (Figure 1F), suggesting that CXCL17-mediated tumorigenicity is based on the host-tumor interaction and angiogenesis. To extend the implication of CXCL17 expression to human cancer biology, CXCL17 expression was screened in various cancer cell lines (approximately 50 cell lines, Figure 2 and

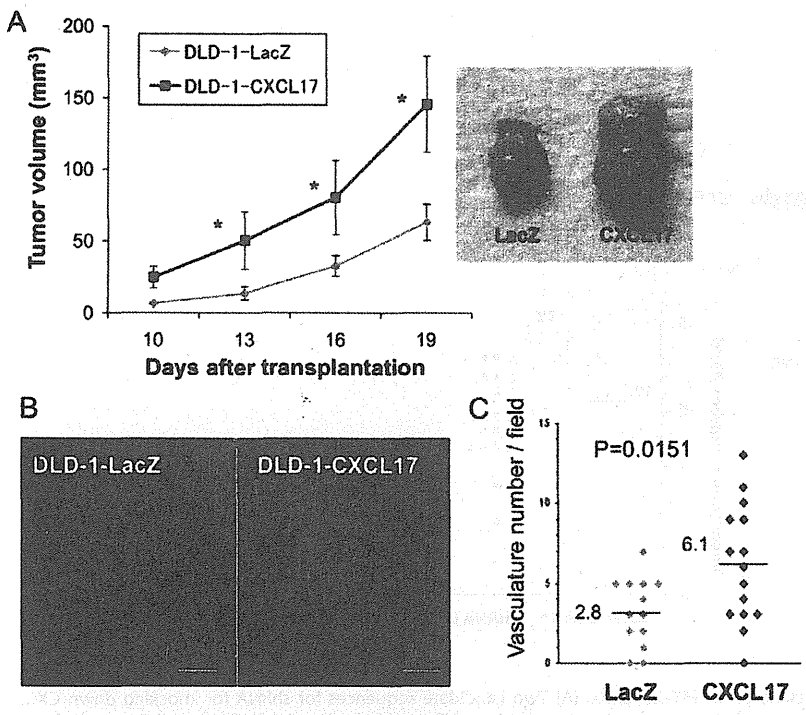


Figure 3. Enhanced tumor formation in CXCL17-expressing DLD-1 colorectal cancer cells. (A) Transfected DLD-1 cells (1×10^6) were transplanted into the subcutaneous space of C.B-17 SCID mice and tumor volume was measured at the indicated time points (left panel). *, $P<0.05$ (mCXCL17 versus LacZ transduction: $n=3-4$ per group). One of three independent experiments with similar results is shown. Right panel, representative tumors isolated from mice at the end of the observation period. (B) Immunostaining of tumors from DLD-1 cells probed by anti-CD31 Ab. Left, LacZ-transduction; right, CXCL17-transduction. Scale bar: 100 um. (C) The number of CD31-positive vasculatures per field. CD31-positive vessels were counted in five random sections. One of three independent experiments with similar results is shown.
doi:10.1371/journal.pone.0044080.g003

Figure S2). Previous reports showed that CXCL17 was expressed in normal stomach, trachea, and lungs (bronchiolar epithelium and a subset of alveolar lining cells) [10], although some colon and breast tumors were CXCL17-positive [11]. In our data, CXCL17 was expressed frequently in colorectal, breast, and lung (non-small cell type) cancer cell lines and some specimens from those patients. Additionally, our study showed that CXCL17 was also expressed in some gastric and pancreatic carcinoma cell lines, but not in melanoma cell lines. Although CXCL17-positive cancer cell lines had aggressive phenotypes in xenogeneic transplantation studies using SCID mice, even overexpression of CXCL17 in less metastatic cell lines without CXCL17 expression led to metastatic growth in the liver. We also performed CXCL17-knockdown experiments using HT-29 cells. However, CXCL17-knockdown had a lower effect on tumorigenicity and angiogenesis (Figure 4). These findings suggest that oncogenic transforming events play a critical role in the phenotypic differences. Therefore, it is possible that CXCL17 expression may be acquired in the late process of cancer progression (or development). The stimuli necessary to effect CXCL17 expression in some cancer cells and the manner in which these stimuli are involved in cancer progression remain to be elucidated.

Various types of myeloid cells have been demonstrated to promote tumor progression by direct immune suppression [21] and the production of angiogenic factors and growth factors [21–23]. With regard to tumor formation, we found accumulations of immature myeloid cells in the tumor edge of CXCL17-positive colon cancer cell lines, but not CXCL17-negative cell lines. Overexpression of CXCL17 clearly increased the number of $CD11b^+Gr\text{-}1^+$ myeloid-derived cells at tumor sites and was coupled with enhanced tumorigenicity and increased vasculature *in vivo* (Figure 3). It may be worth considering the relationship between CXCL17-responding myeloid-derived cells and myeloid-derived suppressor cells (MDSCs). MDSCs still represent a heterogeneous population of immune suppressive cells in humans and mice and are excessively produced in cancer, which can be either monocytic ($Ly\text{-}6C^+$) or granulocytic ($Ly\text{-}6G^+$), and function as systemic immune suppressors and promoters of tumor angiogenesis [4,6]. In humans, a specific marker that will unequivocally identify MDSC has yet to be identified, and this population has not been defined in a uniform manner [24]. Therefore, extensive studies are needed to determine the relationship between mouse and human MDSCs. Recently, Hiraoka *et al.* [25] reported that myeloid-derived cells are accumulated in the intraepithelial tissue of early human pancreatic carcinogenesis, and that CXCL17 may be involved in an anti-tumor immune response. CXCL17-expressing Colon26 cells could form tumors rapidly *in vivo*, and tumor growth between CXCL17- and LacZ-expressing Colon26 cells was not segregated. This dichotomy may have resulted from the specific properties derived from the different cell lines. Additionally, it has previously been shown that MDSCs can enter tumors and differentiate into mature macrophages (TAMs) or neutrophils [26], and that neutrophils placed in intratumoral conditions are imparted with tumoricidal or tumorigenic potential (by the presence or absence of local TGF-beta) [27]. Thus, it is also likely that the nature of recruited myeloid-derived cells and immune cells may be altered by the difference in tumor-

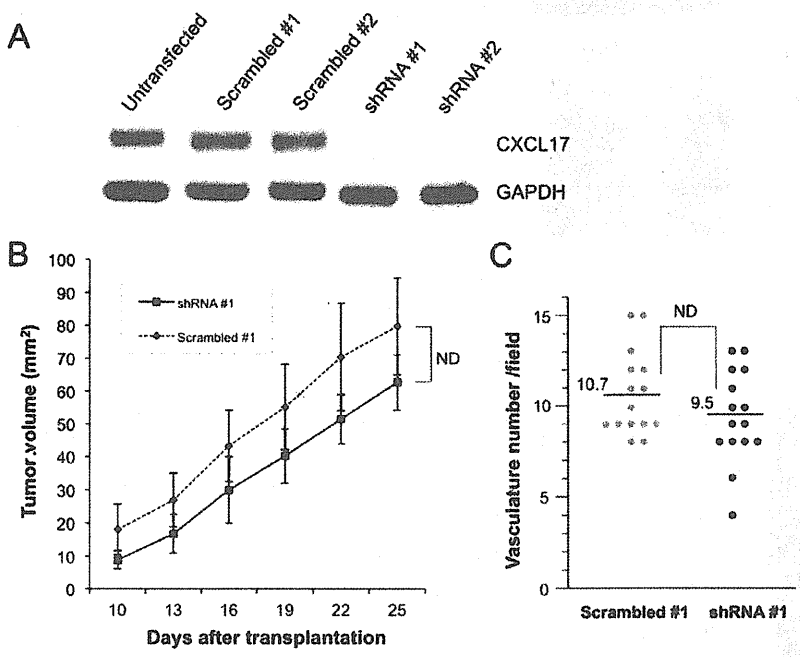


Figure 4. Tumorigenic effect of CXCL17 knockdown in HT-29 cells. (A) Two candidate sequences for shRNA for knocking down CXCL17 expression (shRNA #1 and #2) and corresponding scrambled sequences were also designed (Scrambled #1 and #2). Stable cell lines were isolated and knockdown levels of CXCL17 mRNA were analyzed using RT-PCR. Upper panel, CXCL17; lower panel, GAPDH as an internal control. (B) CXCL17-knockdown HT-29 cells (1×10^6) were transplanted into the subcutaneous space of SHO mice and tumor size was measured at the indicated time points. There was no significant difference between shRNA #1 and Scrambled #1. ND, not different; $P=0.08$ ($n=4$), One of two independent experiments with similar results is shown. (C) CD31-positive vessels of tumors in xenografts of CXCL17-knockdown HT-29 cells were counted in five random sections. ND, not different ($P=0.19$). One of two independent experiments with similar results is shown.
doi:10.1371/journal.pone.0044080.g004

microenvironment between immunocompetent and immunodeficient conditions.

Our results and those of other researchers indicate that CXCL17 may have a dual biological role in tumorigenesis. While the migration of immature myeloid cells was induced at lower concentration levels (0.1–0.2 ug/mL), that of endothelial cells needed a high concentration of CXCL17 (1.0–2.5 ug/mL). The latter case resulted from the physiological conditions for a chemokine. Similar endothelial cell activation through CXCL17 was demonstrated by high-efficient adenoviral transduction of CXCL17 cDNA, in which endothelial cells demonstrated increased levels of VEGF-A, basic FGF, and PDGF [11]. These growth factors have been shown to promote the proliferation and migration of endothelial cells [28–30]. This case might result from those factors induced by CXCL17. Nonetheless, these findings suggest that two types of CXCL17 receptor with high and low affinity may exist, or that levels of the specific receptor might be high or low among responding cells. At the very least, it seems likely that local CXCL17 can activate preexisting endothelial cells after differentiation from recruited endothelial progenitors. To ascertain this dual aspect in tumor microenvironments, identification and characterization of the CXCL17 receptor is needed.

Chemokines are emerging as key mediators in the recruitment of a number of different cell types to the tumor microenvironment [7,15,31,32]. These infiltrating cells provide a secondary source of chemokines that could affect tumor growth and angiogenesis [7,15,31,32]. Recent studies have revealed that myeloid-derived cells should play an important role in angiogenesis by producing various angiogenic factors [4,6,22,23]. Furthermore, accessory cells such as neutrophils could promote angiogenesis and alter immune responses in tumor microenvironments [27,31]. Our studies support the view that the aberrant expression of CXCL17 in human cancer cells recruits immature myeloid-derived cells in mice and promotes tumor progression through angiogenesis. Although the mechanism by which the *CXCL17* gene is activated in malignant cells remains unknown, CXCL17 seems to be involved in the complex tumor microenvironment in some human cancers. Further understanding of the properties of CXCL17 expression and homing cells should provide important clues in efforts to elucidate the components of the tumor microenvironment.

Materials and Methods

Ethics Statements

All animal experiments in this study were approved by the Animal Ethics Review Board of Jichi Medical University (#10–132) and Takasaki University of Health and Welfare (#1119), performed in accordance with the institutional guide for laboratory animals, and followed the principles of laboratory animal care formulated by the National Society for Medical Research. All clinical samples were procured and used according to a protocol approved by the Medical Ethics Committee of Gunma University (followed by principles detailed in the Declaration of Helsinki) from the Pathology Archive of Gunma University and its affiliated hospital. All patients provided written informed consent for the use of their tissues, and all patient information associated with this study was obtained in de-identified format.

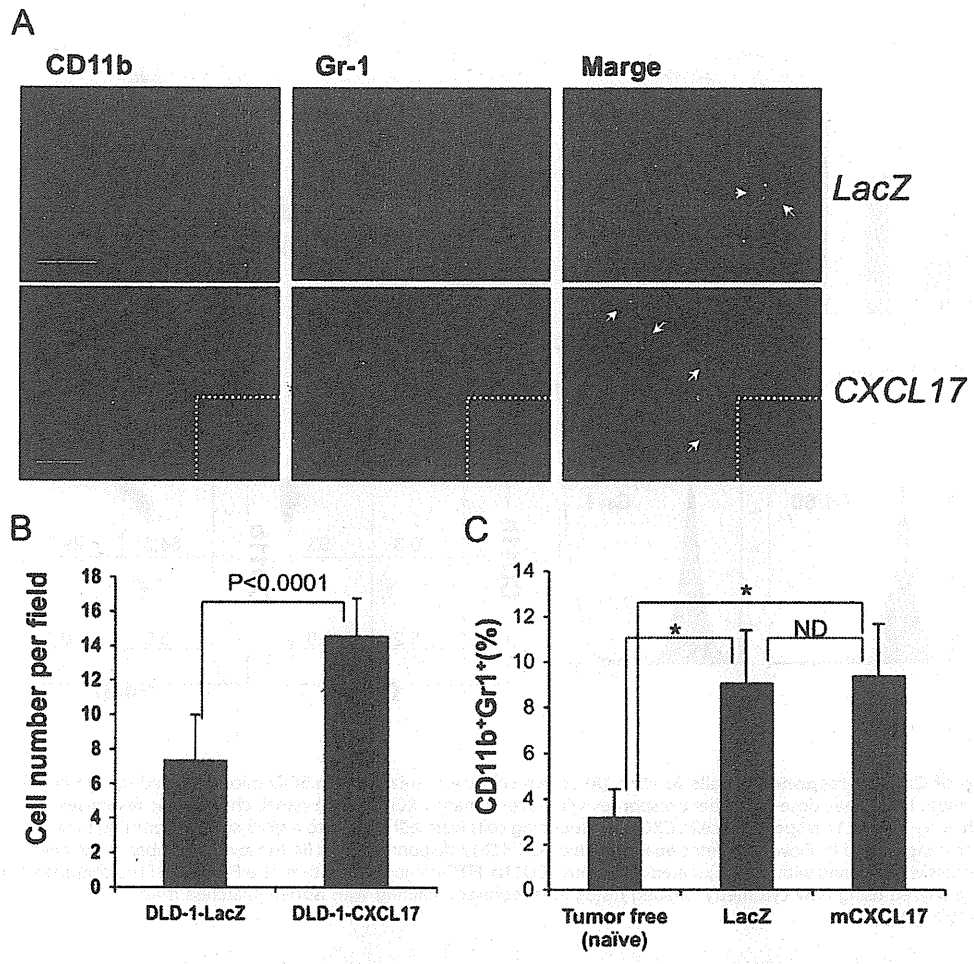


Figure 5. Accumulation of immature myeloid-derived cells in CXCL17-expressing tumor. (A) Tumor sections were stained with anti-CD11b (red) and anti-Gr-1 (green) mAbs. Representative stained images are shown. Upper panels, LacZ transduction; lower panels, CXCL17 transduction. Arrows indicate $CD11b^+Gr\text{-}1^+$ cells. Higher magnification images are shown in the lower-right corner (white dotted area). Scale bar: 100 um. (B) The number of $CD11b^+Gr\text{-}1^+$ cells per field. $CD11b^+Gr\text{-}1^+$ cells were counted in five random sections. One of three independent experiments with similar results is shown. (C) The number of $CD11b^+Gr\text{-}1^+$ cells was determined by FACS in the spleen of Colon26 tumor-bearing BALB/c mice. *, $P<0.05$ (tumor-bearing versus tumor-free naïve mice); ND, not different.
doi:10.1371/journal.pone.0044080.g005

Animals, Cells and Reagents

BALB/c, BALB/c AJcl-nu/nu (BALB/c nude) and C.B-17/Icr-scid/scidJcl (C.B-17 SCID) mice (8–12 weeks old) were purchased from CLEA Japan, Inc. (Tokyo, Japan), and NOD C.B-17-$Prkdc^{scid}$/J (NOD/SCID) and Crlj:SHO-$Prkdc^{scid}Hr^{hr}$ (CHO) mice (8–12 weeks old) were purchased from Charles River Japan (Yokohama, Japan).

NIH3T3 cells and all human cancer cell lines were obtained from the American Type Culture Collection (Rockville, MD) and the Health Science Research Resources Bank (HSRRB) (Osaka, Japan). Cells were maintained in Dulbecco's modified Eagle's medium (DMEM, Sigma-Aldrich, St. Louis, MO), RPMI1640 medium (Sigma-Aldrich), McCoy's 5A medium (Invitrogen, GIBCO, Gaithersburg, MD), or Leibovitz L-15 medium (Sigma-Aldrich), supplemented with 10% heat-inactivated fetal calf serum (FCS) and additional components appropriate for each cell line [33,34]. The cultures were maintained in a humidified atmosphere containing 5% CO_2 and 95% air at 37°C.

Anti-mouse CXCL17 (monoclonal, clone 510614) antibody was obtained from R&D Systems (Minneapolis, MN). Anti-human CXCL17 (polyclonal rabbit IgG, VCC-1 [H-43]: sc-292019) and anti-CD31 antibodies were purchased from Santa Cruz Biotechnology (Santa Cruz, CA). Flow cytometric analysis involved the use of phycoerythrin (PE)-conjugated anti-mouse CD11b mAb, fluorescein isothiocyanate (FITC)-conjugated anti-Gr-1 (Ly-6G) mAb, FITC-conjugated anti-mouse F4/80 mAb, and isotype-matched IgG controls, all of which were purchased from eBioscience (San Diego, CA).

Pertussis toxin (PTX) was obtained from Sigma-Aldrich (St. Louis, MO). Recombinant mouse and human CXCL17 (DMC/VCC1), and recombinant mouse CCL2 (MCP-1) were purchased from R&D Systems and PeproTech (Rocky Hill, MN), respectively.

RT-PCR and cDNA Cloning

Total RNA was extracted from cells using Isogen® (Nippon Gene, Toyama, Japan). Two micrograms of total RNA were used

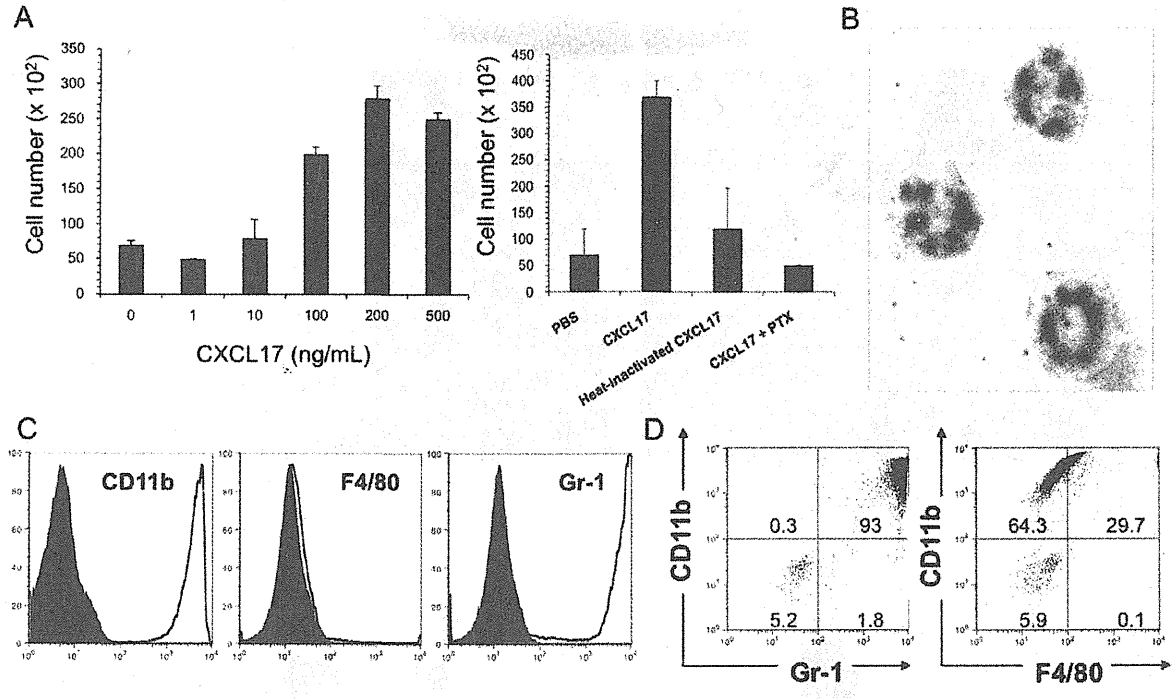


Figure 6. Characterization of CXCL17-responding cells *in vitro*. (A) Spleen cells were isolated from SCID mice and used for the chemotaxis assay (see *Materials and Methods*). Left panel, dose-dependent responses with recombinant CXCL17; right panel, chemotactic responses following various treatments. (B) Morphology of CXCL17-responding cells. CXCL17-responding cells were adhered onto a glass slide by centrifugation and then subjected to Wright-Giemsa staining. (C and D) Flow cytometric analysis of mouse CXCL17-responding cells (in the lower chamber of the chemotaxis assay). mCXCL17-responding cells were stained with PE-conjugated anti-mouse CD11b, FITC-conjugated anti-mouse F4/80 and FITC-conjugated anti-mouse Gr-1 mAbs, and then analyzed using flow cytometry. Shaded histograms represent staining with isotype-matched mAbs.
doi:10.1371/journal.pone.0044080.g006

for first-strand synthesis using SuperScript III™ reverse transcriptase (Invitrogen, Carlsbad, CA). PCR was then performed using ExTaq polymerase (Takara Bio, Ohtsu, Japan). The full-length encoding sequences of mouse CXCL17 (GenBank, NM_153576) and human CXCL17 (GenBank, NM_198477) were amplified from lung-derived cDNA of mice and human

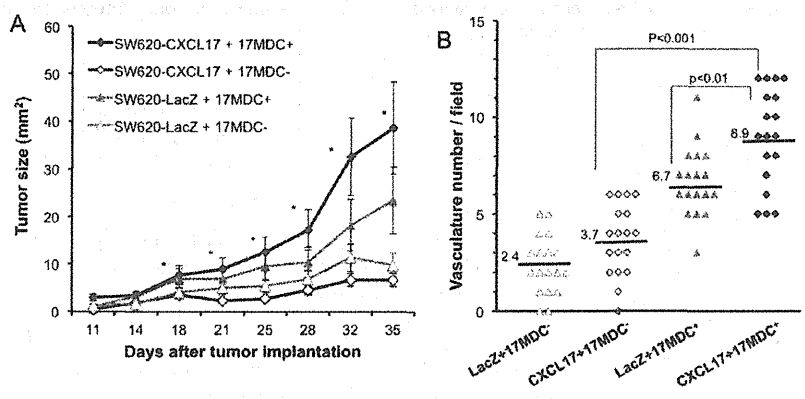


Figure 7. CXCL17-responding myeloid cells promote tumor formation and angiogenesis. (A) CXCL17-responding myeloid-derived cells ($17MDC^+$, 1×10^5) were collected from the lower chamber of the chemotaxis assay (4-hr incubation), and inoculated subcutaneously into SCID (SHO) mice together with SW620-CXCL17 or -LacZ cells (1×10^6). CXCL17-unresponding myeloid-derived cells ($17MDC^-$, 1×10^5) were used as control cells. Tumor growth was monitored every 3–4 days following tumor implantation. *, $P<0.05$ (Kruskal-Wallis test, SW620-CXCL17+$17MDC^+$ versus SW620-CXCL17+$17MDC^-$, SW620-LacZ +$17MDC^-$ at day 18–35 following tumor implantation). One of two experiments with similar results is shown. (B) CD31-positive vessels of tumors from SW620-CXCL17 cells with CXCL17-responding cells were counted in five random sections. One of two independent experiments with similar results is shown.
doi:10.1371/journal.pone.0044080.g007

MKN-1 cells using the following respective primers: mCXCL17 sense: 5′-ATG AAG CTT CTA GCC TCT CCC-3′; mCXCL17 anti-sense: 5′-CTA TAA GGG CAG CGC AAA GCT TGC-3′; hCXCL17 sense: 5′-ATG AAA GTT CTA ATC TCT TCC CTC-3′; hCXCL17 anti-sense: 5′-CTA CAA AGG CAG AGC AAA GCT TCT TAG C-3′. The PCR product was then inserted into the TOPO® PCR Cloning vector (pCR2.1, Invitrogen, CA). Following confirmation of the nucleotide sequence, the *EcoRI* cDNA fragments were inserted into the pQCXIN retroviral vector (Clontech, Palo Alto, CA) to generate pQCXIN-mCXCL17 and pQCXIN-hCXCL17, respectively. The retroviral expression plasmids for H-Ras^{G12V} (pBabe-H-Ras^{G12}; pBabe-puro in control) have been previously described [35].

For expression analysis, the aforementioned and following primers were used: glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase (GAPDH) sense: 5′-GTA TCG TGG AAG GAC TCA TG-3′; and GAPDH anti-sense: 5′-AGT GGG TGT CGC GCT GTT GAA G-3′; human VEGF-A sense: 5′-ATG ACG AGG GCC TGG AGT GTG-3′; human VEGF-A anti-sense: 5′-CCT ATG TGC TGG CCT TGG TGA G-3′. PCR conditions for each set of primers included initial treatment at 95°C for 2 min, followed by 35 cycles consisting of denaturation at 95°C for 15 sec, annealing at 57°C for 30 sec, and then extension at 72°C for 2 min. PCR products were analyzed using a 1% agarose gel.

Transfection, Soft Agar Colony Formation Assay, and Cell Proliferation Assay

To generate CXCL17-expressing cells, GP2-293 packaging cells (Clontech) were cotransfected with pQCXIN-mCXCL17 and pVSV-G (Clontech), a plasmid encoding the viral envelope glycoprotein (VSV-G) of the vesicular stomatitis virus, using Lipofectamine 2000 (Invitrogen). Supernatants from transfected GP2-293 were incubated with ~50% confluent cells in the presence of polybrene (8 ug/ml final concentration; Sigma-Aldrich). Transduced cells were propagated and maintained in medium containing G418 geneticine (Sigma-Aldrich, final 800 ug/ml) or puromycin (Sigma-Aldrich, final 15 ug/ml). Similar retroviral transductions were conducted for hCXCL17, LacZ, and H-Ras^{G12V} cDNA, and the establishment of firefly (*Photinus pyralis*) luciferase-expressing cells has been previously described [13,34].

For soft agar colony formation assays, cells (1×10^4) in DMEM containing 10% FCS were suspended in 0.4% agarose (SeaPlaque® Agarose; Takara Bio, Japan). The cell suspension was then layered onto a solidified 0.53% agarose bottom layer containing 10% FCS-DMEM in a 35-mm plate and incubated at 37°C and 5% CO_2 for 14–21 days until evaluation. Each assay was performed in duplicate and repeated three times with similar results.

For cell proliferation assays, cells (1×10^5 per well of a 12-well plastic plate in triplicate) were seeded and incubated for the indicated time points, and then adherent cells were counted using a hemocytometer with trypan blue exclusion.

Knockdown of CXL17

To knock down human CXCL17 mRNA, the following target sequences were selected: shRNA#1, 5′ TAA GAA GCT TTG CTC TGC CTT TGT A-3′; shRNA#2, 5′- GTA GCT TCC TAG CTA GTG T-3′. These were driven from pBAsi-hU6 Pur DNA plasmid (Takara Bio, Ohtsu, Japan). Plasmid DNA was transfected into HT-29 cells and stable CXCL17-knockdown cells were established in medium containing puromycin (Sigma-Aldrich, final 15 ug/ml). Several clones were isolated per target sequence and CXCL17 expression levels were monitored by RT-PCR. Notably, cell proliferation properties did not alter among parental and transfected cells (data not shown).

Flow Cytometry and Immunofluorescence Staining

For the flow cytometric analysis, cells (1×10^6) were washed with PBS and incubated with mAb for 30 min at 4°C. Following washing with 0.1% FCS-PBS, cells (5×10^4) were analyzed using FACSCalibur (Becton Dickinson, Mountain View, CA) and FlowJo analysis software (Tree Star, San Carlos, CA).

For immunofluorescence staining, removed tumor specimens were fixed with 4% paraformaldehyde and embedded in Tissue-Tek® Optimal Cutting Temperature (OCT) compound (Sakura Finetek, Tokyo, Japan). Frozen tissue sections (5 um) were probed with anti-CD31, followed by appropriate Alexa Fluor 594-labelled secondary antibodies (Invitrogen; diluted 1:500 in 0.1% BSA for 30 min at room temperature). In sections stained with anti-CD31 antibody, CD31-positive tubular structures within the tumor were considered blood vessels. CD31-positive vessels were counted in five random sections.

Immunohistochemical analyses used xenografts of HT-29 (colon cancer), NCI-H460 (non-small cell lung cancer), and A549 (non-small cell lung cancer) cell lines. These were obtained from the American Type Culture Collection (Rockville, MD). Additionally, surgically resected specimens from human lung, breast, and colon cancer (10 cases each, all were adenocarcinoma) were examined. Tissue samples were fixed with 4% formaldehyde for one day and then embedded in paraffin routinely. Three-um-thick sections were prepared and stained with hematoxylin and eosin (H&E). Adjacent sections were reacted with primary antibody to human CXCL17 (2 ug/ml, Santa Cruz Biotechnology) overnight at 4°C. For coloration, a commercially available biotin-streptavidin immunoperoxidase kit (Histofine, Nichirei, Tokyo, Japan) and 3,3′-diaminobenzidine were employed, and counterstained lightly with hematoxylin. Prior to immunostaining, specimens required antigen retrieval by autoclaving (120°C, 10 min) in 10 mM citrate buffer (pH 6.0). Specimens incubated with normal rabbit IgG (2 ug/ml) *in lieu* of the primary antibody, and those not treated with the primary antibody, were utilized as negative controls.

Tumor Transplantation Model

Cells in exponential growth phase were harvested by trypsinization and washed twice in PBS prior to injection. C.B-17 SCID mice were treated by injection of anti-asialo GM1 Abs (100 mg/body, Wako, Japan) into the peritoneal cavity one day prior to the operation. For the subcutaneous injections, cells (1×10^6) were injected into the subcutaneous space of mice (the hind limb or the abdomen) [13,36].

In vivo Imaging

In vivo tumor progression at the skin was examined using the Vevo770 high-resolution ultrasound (US) system with contrast mode software (VisualSonics, Toronto, Ontario, Canada). During the US imaging session, the animals were anesthetized with a 2%/98% isoflurane/oxygen mixture, and body temperature was monitored and maintained at 37°C using a warming plate. Coupling gel was applied to the tumor area, and 3-dimensional (3D) mode and power Doppler scout images established a field of view with vascularity present. To enhance vessel imaging, liposomal microbubbles (approximately 0.8 um in diameter; 5×10^7/ml) [37] were used as ultrasound contrast agents, which comprise small volumes of gas surrounded by a stabilizing lipid shell (1 ug/ul). Each bolus injection of microbubbles (200 ul) was administered into the tail vein of tumor-bearing mice.

Chemotaxis Assay

Spleen cells isolated from mice were used for chemotaxis assays. Cells (1×10^6 cells/24 well-plate or 5×10^6 cells/6 well-plate) were placed on top of the 3-um pore size filters in duplicate, whereas 0.2% BSA-containing RPMI1640 with and without chemokines were placed into the lower chamber (exposed at the indicated concentrations). Following 4 hr at 37°C, migrated cells that had fallen to the bottom of the plate were counted using a hemocytometer and their phenotypes were analyzed by a flow cytometer. PTX treatment occurred at a concentration of 100 ng/ml for 2 hr, and heat-inactivation of recombinant CXCL17 was performed at 95°C for 1 min. Two or three independent experiments were performed with similar results.

Statistical Analysis

P values based on the two-sided Student's *t* test, Mann-Whitney U test, or Kruskal-Wallis test were obtained using the Instat 3 software package (GraphPad, San Diego, CA). Differences between groups were considered significant if $P<0.05$.

Supporting Information

Figure S1 Cell morphology of allografts derived from CXCL17-expressing NIH3T3 cells. Specimens from allografts were stained using H&E (Magnification, x 40; Scale bar, 50 um). Transplanted cells are indicated in each panel.
(TIF)

Figure S2 CXCL17 mRNA expression in various human cell lines. (A) Analysis of human CXCL17 mRNA expression in human cancer cell lines using RT-PCR. Upper panel, CXCL17; lower panel, GAPDH as an internal control. Cell line names are indicated on each panel.
(TIF)

Figure S3 Immunohistochemistry for CXCL17 in the xenograft tumor and in surgically resected specimens from human lung adenocarcinoma. (A) Immunohistochemistry for CXCL17 in the xenograft tumor of A549 and NCI-H460 cells. (B) Surgically resected lung cancers were probed with anti-human CXCL17 antibodies. Magnification is x 100. The brown color (3,3′-diaminobenzidine) indicates positive staining. Left panels, H&E staining; middle panels, staining with normal rabbit IgG; right panels, anti-human CXCL17 IgG.
(TIF)

Figure S4 Enhanced tumor formation in CXCL17-expressing SW620 colon cancer cells. (A) CXCL17-transfected SW620 cells (1×10^6) were transplanted into the subcutaneous space of C.B-17 SCID mice and tumor volume was measured at the indicated time points by Vevo770. (B) Blood flow analysis using Vevo770 Doppler-based ultrasound imaging analysis in CXCL17-SW620 cells. It is worth noting that tumors of CXCL17-expressing SW620 cells showed increased blood flow signals in the early tumorigenic stage, but not those of control LacZ-SW620 cells. (C) Stronger blood flow signals in CXCL17-SW620 tumors compared to LacZ-SW620 tumors at the equivalent tumor volume (75 mm^3).
(TIF)

Figure S5 Metastatic potential in CXCL17-expressing human cancer cell lines. (A) Luciferase-expressing colon cancer cells were injected into the left ventricle of NOD/SCID mice. Metastatic growth was monitored by tumor-derived photons *in vivo*. Representative images around 30–40 days following tumor injection are shown. It is worth noting that DLD-1, SW620 and HCT-15 cells were less metastasized than HT-29, KM-12 and Colo205 cells. (B) *Ex vivo* luminescent inspection of metastasized organs after intra-cardiac injection of tumor cells. (C) Luciferase and CXCL17 doubly expressing DLD-1 cells were injected into the portal vein of SCID mice and then examined by *in vivo* luminescent imaging.
(TIF)

Figure S6 Increase in CXCL17-responding cells in tumor-bearing BALB/c mice. Parental (unmanipulated) Colon26 cells were transplanted subcutaneously into BALB/c mice, and tumor-bearing conditions in BALB/c mice conditions were generated (BALB/c Tumor, at 15–20 days after implantation). (A) Spleen cells were isolated from the indicated mice and the number of $CD11b^+Gr\text{-}1^+$ cells was determined by a flow cytometer. It is interesting to note that $CD11b^+Gr\text{-}1^+$ cells in BALB/c Tumor increased more than in naïve tumor-free mice. (B) Spleen cells were isolated from the indicated mice and used for the chemotaxis assay using mouse recombinant CXCL17. *, $P<0.001$ ($n=4$). One of two independent experiments with similar results is shown.
(TIF)

Figure S7 Flow cytometric analysis of CXCL17-responding cells. (A) Spleen cells were isolated from SCID mice and used for the chemotaxis assay using human recombinant CXCL17. (B) Human recombinant CXCL17-responding cells were stained with PE-conjugated anti-mouse CD11b, FITC-conjugated anti-mouse F4/80 and FITC-conjugated anti-mouse Gr-1 mAbs, and then analyzed using flow cytometry. Isotypes, staining with PE-conjugated and/or FITC-conjugated isotype-matched control IgGs; Upper chamber, remaining cell population; lower chamber, responding cell population. (C) Differential population of CXCL17-responding cells from CCL2-responding cells. The dotted rectangle represents the major population preferentially responding to the indicated chemokine.
(TIF)

Figure S8 Enhanced migration of HUVECs with CXCL17. (A) RT-PCR analysis of VEGF-A mRNA expression in HUVECs following recombinant hCXCL17 treatment. HUVECs were exposed to CXCL17 at the indicated concentrations for 10 hr. Upper panel, VEGF-A; lower panel, GAPDH as an internal control. (B) Migration assay of HUVECs in the presence of recombinant hCXCL17. Lines represent reference points for the scratch with a pipette tip. One of two independent experiments with similar results is shown.
(TIF)

Materials and Methods S1
(DOC)

Acknowledgments

We would like to thank Yumi Ohde and Masayo Kumagai for their skillful technical assistance.

Author Contributions

Conceived and designed the experiments: TM AM. Performed the experiments: AM HY NALC IK. Analyzed the data: AM NALC HY. Contributed reagents/materials/analysis tools: YN YE-T RS KM YA KS. Wrote the paper: TM AM. Analyzed the immunohistochemical data: AM HY. Analyzed the in vivo imaging data: AM NALC. Contributed to the development of the ideas underlying this study: MT EK.

References

1. Mantovani A, Allavena P, Sica A, Balkwill F (2008) Cancer-related inflammation. Nature 454: 436–444.
2. Hanahan D, Folkman J (1996) Patterns and emerging mechanisms of the angiogenic switch during tumorigenesis. Cell 86: 353–364.
3. Bergers G, Benjamine LE (2003) Tumorigenesis and the angiogenic switch. Nat Rev Cancer 3: 401–410.
4. Murdoch C, Muthana M, Coffelt SB, Lewis CE (2008) The role of myeloid cells in the promotion of tumour angiogenesis. Nat Rev Cancer 8: 618–631.
5. Mishra PJ, Mishra PJ, Glod JW, Banerjee D (2009) Mesenchymal stem cells: flip side of the coin. Cancer Res 69: 1255–1258.
6. Gabrilovich DI, Nagaraj S (2009) Myeloid-derived suppressor cells as regulators of the immune system. Nat Rev Immunol 9: 162–174.
7. Balkwill F (2004) Cancer and the chemokine network. Nat Rev Cancer 4: 540–550.
8. Wang JM, Taraboletti G, Matsushima K, Van Damme J, Mantovani A (1990) Induction of haptotactic migration of melanoma cells by neutrophil activating protein/interleukin-8. Biochem Biophys Res Commun 169: 165–170.
9. Yanagawa J, Walser TC, Zhu LX, Hong L, Fishbein MC, et al. (2009) Snail promotes CXCR2 ligand-dependent tumor progression in non-small cell lung carcinoma. Clin Cancer Res 15: 6820–6829.
10. Pisabarro MT, Leung B, Kwong M, Corpuz R, Frantz GD, et al. (2006) Novel human dendritic cell- and monocyte-attracting chemokine-like protein identified by fold recognition methods. J Immunol 176: 2069–2073.
11. Weinstein EJ, Head R, Griggs DW, Sun D, Evans RJ, et al. (2006) VCC-1, a novel chemokine, promotes tumor growth. Biochem Biophys Res Commun 350: 74–81.
12. Sun H, Taneja R (2007) Analysis of transformation and tumorigenicity using mouse embryonic fibroblast cells. Methods Mol Biol 383: 303–310.
13. Sato A, Ohtsuki M, Hata M, Kobayashi E, Murakami T (2006) Antitumor activity of interferon (IFN)-lambda in murine tumor models. J Immunol 176: 7686–7694.
14. Conti I, Rollins BJ (2004) CCL2 (monocyte chemoattractant protein-1) and cancer. Semin Cancer Biol 14: 149–154.
15. Mishra P, Banerjee D, Ben-Baruch A (2011) Chemokines at the crossroads of tumor-fibroblast interactions that promote malignancy. J Leukoc Biol 89: 31–39.
16. Fridlender ZG, Buchlis G, Kapoor V, Cheng G, Sun J, et al. (2010) CCL2 blockade augments cancer immunotherapy. Cancer Res 70: 109–118.
17. Copeland NG, Cooper GM (1979) Transfection by exogenous and endogenous murine retrovirus DNAs. Cell 16: 347–356.
18. Fujita J, Yoshida O, Yuasa Y, Rhim JS, Hatanaka M, et al. (1984) Ha-ras oncogenes are activated by somatic alterations in human urinary tract tumours. Nature 309: 464–466.
19. Whitehead IP, Zohn IE, Der CJ (2001) Rho GTPase-dependent transformation by G protein-coupled receptors. Oncogene 20: 1547–1555.
20. Bais C, Santomasso B, Coso O, Arvanitakis L, Raaka EG, et al (1998) G-protein-coupled receptor of Kaposi's sarcoma-associated herpesvirus is a viral oncogene and angiogenesis activator Nature 391: 86–9.
21. Mantovani A, Sozzani S, Locati M, Allavena P, Sica A (2002) Macrophage polarization: tumor-associated macrophages as a paradigm for polarized M2 mononuclear phagocytes. Trends Immunol 23: 549–555.
22. Balkwill F, Coussens LM (2004) Cancer: an inflammatory link. Nature 431: 405–406.
23. Luo Y, Zhou H, Krueger J, Kaplan C, Lee SH, et al. (2006) Targeting tumor-associated macrophages as a novel strategy against breast cancer. J Clin Invest 116: 2132–2141.
24. Tadmor T, Attias D, Polliack A (2011) Myeloid-derived suppressor cells–their role in haemato-oncological malignancies and other cancers and possible implications for therapy. Br J Haematol 153: 557–567.
25. Hiraoka N, Yamazaki-Itoh R, Ino Y, Mizuguchi Y, Yamada T, et al. (2011) CXCL17 and ICAM2 are associated with a potential anti-tumor immune response in early intraepithelial stages of human pancreatic carcinogenesis. Gastroenterology 140: 310–321.
26. Kusmartsev S, Nagaraj S, Gabrilovich DI (2005) Tumor-associated CD8+ T cell tolerance induced by bone marrow-derived immature myeloid cells. J Immunol 175: 4583–4592.
27. Fridlender ZG, Sun J, Kim S, Kapoor V, Cheng G, et al. (2009) Polarization of tumor-associated neutrophil phenotype by TGF-beta: "N1" versus "N2" TAN. Cancer Cell 16: 183–194.
28. Andrae J, Gallini R, Betsholtz C (2008) Role of platelet-derived growth factors in physiology and medicine. Genes Dev 22: 1276–1312.
29. Holmqvist K, Cross MJ, Rolny C, Hägerkvist R, Rahimi N, et al. (2004) The adaptor protein shb binds to tyrosine 1175 in vascular endothelial growth factor (VEGF) receptor-2 and regulates VEGF-dependent cellular migration. J Biol Chem 279: 22267–22275.
30. Poole TJ, Finkelstein EB, Cox CM (2001) The role of FGF and VEGF in angioblast induction and migration during vascular development. Dev Dyn 220: 1–17.
31. Mantovani A (2009) The yin-yang of tumor-associated neutrophils. Cancer Cell 16: 173–174.
32. Lazennec G, Richmond A (2010) Chemokines and chemokine receptors: new insights into cancer-related inflammation. Trends Mol Med 16: 133–144.
33. Murakami T, Maki W, Cardones AR, Fang H, Tun Kyi A, et al. (2002) Expression of CXC chemokine receptor (CXCR)-4 enhances the pulmonary metastatic potential of murine B16 melanoma cells. Cancer Res 62: 7328–7334.
34. Yanagisawa S, Kadouchi I, Yokomori K, Hirose M, Hakozaki M, et al. (2009) Identification and metastatic potential of tumor-initiating cells in malignant rhabdoid tumor of the kidney. Clin Cancer Res 5: 3014–3022.
35. Morgenstern JP, Land H (1990) Advanced mammalian gene transfer: high titer retroviral vectors with multiple drug selection markers and a complementary helper-free packaging cell line. Nucleic Acids Res 18: 3587–3596.
36. Murakami T, Sato A, Chun NAL, Hara M, Naito Y, et al. (2008) Transcriptional modulation using HDACi depsipeptide promotes immune cell-mediated tumor destruction of murine B16 melanoma. J Invest Dermatol 28: 1506–1516.
37. Negishi Y, Endo Y, Fukuyama T, Suzuki R, Takizawa T, et al. (2008) Delivery of siRNA into the cytoplasm by liposomal bubbles and ultrasound. J Control Release 132: 124–130.

molecular pharmaceutics

Brief Article

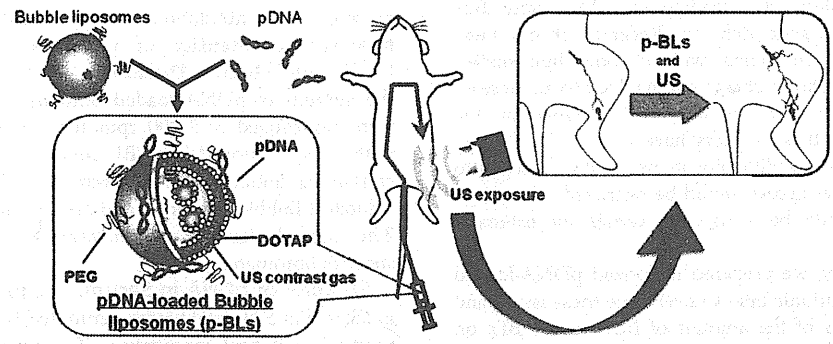
pubs.acs.org/molecularpharmaceutics

Systemic Delivery Systems of Angiogenic Gene by Novel Bubble Liposomes Containing Cationic Lipid and Ultrasound Exposure

Yoichi Negishi,*[,†,‡] Yoko Endo-Takahashi,[†,‡] Yuki Matsuki,[†,‡] Yasuharu Kato,[†] Norio Takagi,[§] Ryo Suzuki,[∥] Kazuo Maruyama,[∥] and Yukihiko Aramaki[†]

[†]Department of Drug Delivery and Molecular Biopharmaceutics, and [§]Department of Molecular and Cellular Pharmacology, School of Pharmacy, Tokyo University of Pharmacy and Life Sciences, 1432-1 Horinouchi, Hachioji, Tokyo 192-0392, Japan

[∥]Department of Biopharmaceutics, School of Pharmaceutical Sciences, Teikyo University, 1091-1 Suwarashi, Midori-ku, Sagamihara, Kanagawa 252-5195, Japan



ABSTRACT: Recently, we developed polyethyleneglycol (PEG)-modified liposomes (Bubble liposomes; BLs) entrapping ultrasound (US) gas and reported that the combination of BL and US exposure was an effective tool for the delivery of pDNA directly into skeletal muscles of an ischemic hindlimb model with local injection. To achieve gene delivery to deeper tissues, we attempted to prepare novel Bubble liposomes which were able to be loaded with pDNA and useful for systemic injection. We prepared BLs using cationic lipid and analyzed the interaction with the BLs and pDNA using flow cytometry. The solution of pDNA-loaded BLs (p-BLs) was further injected into the tail vein of hindlimb ischemia model mice, and transdermal US exposure was applied to ischemic hindlimb. The effects of transfection on angiogenic factors were investigated by real-time PCR. Blood flow was determined using a laser Doppler blood flow meter. The interaction with BLs and pDNA increased in the presence of DOTAP and short PEG chains and resulted in increased stability of pDNA in the serum. Transfection with pDNA encoding the bFGF gene using p-BLs and US induced various angiogenic factors and improved the blood flow. The gene delivery system into the ischemic hindlimb using the combination of p-BLs and US exposure could be an effective tool for angiogenic gene therapy via systemic injection.

KEYWORDS: *Bubble liposomes, cationic lipid, ultrasound, gene delivery, angiogenesis*

INTRODUCTION

Peripheral artery disease (PAD) afflicts more people today because of increases in the prevalence of diabetes and the aging population.[1] Surgical interventions such as bypass surgery, balloon angioplasty, and stent placement are currently the most commonly available treatment options for patients; however, these methods are highly invasive. Therapeutic angiogenesis induced by growth factor administration is a promising noninvasive treatment option for PAD because it allows for capillary outgrowth, re-establishes perfusion, and restores tissues to normoxic conditions.[2−4]

To achieve successful gene therapy in a clinical setting, it is critical that gene delivery systems be safe, be easy to apply, and provide therapeutic transgene expression. Recently, among physical nonviral gene transfer methods, it has been shown that therapeutic ultrasound enables genes to permeate cell membranes. Furthermore, a combination of microbubbles and US has been proposed as a less invasive and tissue-specific method of gene delivery. This combination produces transient changes in the permeability of the cell membrane and allows for the site-specific intracellular delivery of molecules such as dextran, pDNA, peptides, and siRNA both *in vitro* and *in vivo*.[5−12] However, microbubbles have problems with size, stability, and targeting function. Polyethyleneglycol (PEG)-modified liposomes have excellent biocompatibility, stability, and long circulation time and can be easily prepared in a variety of sizes and modified to add a targeting function. For these

Received: November 1, 2011
Revised: April 24, 2012
Accepted: May 9, 2012
Published: May 9, 2012

